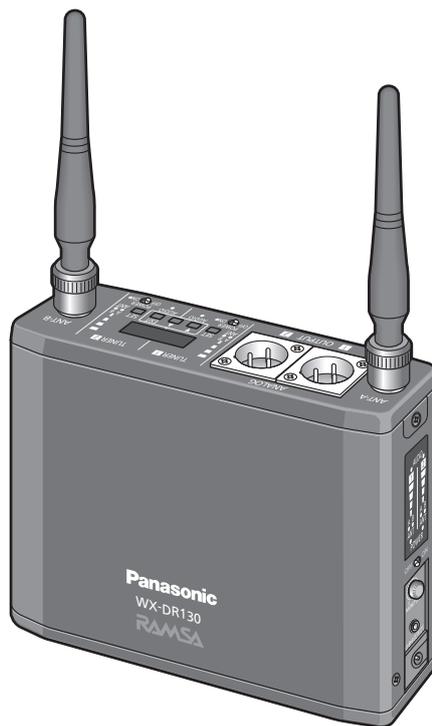


取扱説明書

ワイヤレス受信機

品番 WX-DR130

RAMSA



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(6～7ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

はじめに

商品概要

WX-DR130（以下、本機）は、多チャンネル、高機能なポータブル型の1.2 GHz帯デジタルワイヤレス受信機です。1.2 GHz帯デジタルワイヤレスマイクロホン（WX-DT110-K、WX-DT110-S、WX-DT120-S、WX-DT130、WX-DT140-K：すべて別売品）と組み合わせることで、本機で2波を同時に受信できます。

- 番組制作や報道取材などの音声集音に適しています。
- 制約を受けにくい1.2 GHz帯の採用
テレビホワイトスペース帯（470～714 MHz）とは異なり、使用場所の制約を意識することなくチャンネルプランを構築できる1.2 GHz帯の周波数を採用。また、周波数に応じて機器を変更することなく使用可能です。
- **プロフェッショナルが求める低遅延の実現**
低遅延モード（ワイドバンド設定、帯域幅：288 kHz）は約1.1 msec^{*1}の音声伝送時間の低遅延を実現し最大37波の同時運用が可能です。
多チャンネルモード（ナローバンド設定、帯域幅：192 kHz）は約2.9 msec^{*1}の遅延で最大53波の同時運用が可能です。また、瞬間的なパルス性の妨害波が飛び込んだ場合の混信によるノイズや音途切れを防止する性能^{*2}を強化しています。
※1 ワイヤレスマイクのマイク入力から受信機のアナログ出力までの時間。
※2 本機能については、上記妨害波による不具合防止を保証するものではありません。
- 周波数スキャン機能（簡易的なスペクトラムアナライザー表示）を搭載しており、妨害波を避けて安定した運用ができます。
- 電源は、単3形電池4個またはDC12 Vの外部電源を使用できます。
- モニター端子にステレオヘッドホンを接続することにより、音声出力を確認できます。

注：本書に掲載している別売品の品番は、2015年2月現在のものです。

付属品をご確認ください

ショルダーケース.....	1個	取扱説明書（本書）.....	1冊
フレキシブルアンテナ.....	2個	周波数表.....	1冊
電池ホルダー（予備）.....	1個	保証書.....	1式

- 最新の取扱説明書の入手は、パナソニック法人向けサイトのプロダクトサーチ（<http://solcl.panasonic.biz/pc/>）をご確認ください。

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損などの不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
- ⑦ 故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害
本商品の無線通話はデジタル方式を採用しておりますが、傍受を抑制する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

用語・記号について

本書では、以下の用語および記号を用いて説明しています。

受信機

ワイヤレスシステムにおける、電波を受信する機器の総称です。本書の中では、本機を含めたワイヤレス受信機のことを指します。

ダイバシティ方式

複数のアンテナで受信した信号のうち、電波の安定した信号を採用する方式です。本機では、A系・B系の2つのアンテナを使用します。信号の選択は各アンテナ毎に用意された受信部のうち最も受信エラーの少ない信号を選択して出力します。

バンド

本機で受信する電波に対して、1波あたりに占有する帯域のことです。本機では、ワイドとナローの2つのバンドを設定できます。

ワイドバンドは、288 kHzの帯域幅を占有するため、ナローバンドに比べて音質がよくなり、遅延時間も短くなります。

ナローバンドは、占有する帯域幅を192 kHzにしているため、ワイドバンドに比べて遅延時間は長くなりますが、より多くのワイヤレスマイクを使用することができます。

グループ

各チャンネルの受信周波数を、使用するチャンネル数に合わせてあらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

チャンネル

同一グループ内で、同時に受信可能な周波数に番号をつけたものです。1チャンネルに1周波数が割り当てられ、本機1台で、2チャンネルの受信が可能です。単に周波数を数えるときは、1波、2波…と数えます。

チャンネル呼称（呼称番号）

各周波数に付けられた番号です。一般社団法人電波産業会で規定された番号のため、他のメーカーでも番号に対応する周波数は同じです。

AES/EBU

AESとEBUで定められた、オーディオ機器間でデジタルデータをやりとりする業務用の規格です。本機では、受信した音声信号をAES/EBU信号にして出力することができます。

ワードクロック

機器間のデジタル音声信号の同期を取るためのクロック信号です。

 **重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。

 : 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
用語・記号について	3
もくじ	4
安全上のご注意	6
使用上のお願い	8
取り扱い上のお願い	8
上手な使いかた	8
お手入れについて	8
周波数表の見かた	9
各部の名前とはたらき	10
各部の名前とはたらき（液晶表示）	15
アンテナの接続	20
アナログ音声出力コネクターの接続	20
AES / EBU 用コネクターの接続	21
電源の準備	22

基本操作

使用するチューナーの電源を入れる / 切る	24
周波数を設定する	25
側面表示の使いかた	27
本機をショルダーケースに装着する	27
モニターを接続する	28

必要なとき

本機各モード	29
各モードへの遷移方法	30
運用モード	31
簡易設定モード	39
設定モード	40
クイック設定モード	51
間欠受信モード	52
周波数スキャンモード	53
メモリーモード	57
メニューモード	63

はじめに

基本操作

その他

故障かな!?	64
仕様	67
お買い上げ時の設定	68
保証とアフターサービス	69

必要なとき

その他

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

警告

屋外で使用のとき雷が鳴り出したら、体から離す



落雷の原因となります。

- ただちに使用をやめ、体から本機を遠ざけてください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

乾電池は充電・分解・ショートしない



禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

充電電池は分解・ショートしない



禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない



禁止

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

心臓ペースメーカー装着者に配慮して、満員電車などの人混みでは電源を切る



本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

航空機内では電源を切る



運行の安全に支障をきたす恐れがあります。

医用電気機器に近づけない (手術室、集中治療室、CCU*などには持ち込まない)



禁止

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

*CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

警告

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない



禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- ただちに、販売店にご連絡ください。

注意

電池は極性（プラス+とマイナス-）を正しく入れる



間違えると、電池の破裂や液もれにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

ニッカド電池は使わない



禁止

万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。

ぬれた手で使用しない



ぬれ手禁止

感電や故障の原因となります。

違う種類の電池や、新旧の電池は混ぜて使わない



禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

使用上のお願い

⚠ 警告、⚠ 注意に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

取り扱い上のお願い

- 本機は1.2 GHz帯のワイヤレスマイクに対応しています。
- 本機内部にある各電気回路は、工場で各種の精密な測定器を用いて厳密に調整されておりますので、ねじをゆるめたり、改造したりしないでください。
- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。
- なるべく乾燥したところに保管してください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落とすと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると本機より衝撃音が発生し、出力されますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 雨の中での使用や直接水のかかる場所では使用しないでください。
- 塩害や腐食性ガスの発生する場所で使用しないでください。
- 本機は、周囲温度0℃～+40℃の範囲でご使用ください。10℃以下になりますと、使用電池の寿命は短くなりますので、動作時間などにご注意ください。
- 使用しないときは、必ず電池を取り出してください。液漏れの原因になります。
- 落下するどけがや故障の原因となりますので、高所で使用する場合は、取り扱い方法や固定方法に十分注意してください。また、付属のショルダーケースを使用する場合は、ベルトをケースフック金具に通し、ベルトフック部で抜け落ちないように正しく取り付けられていることを確認して使用してください。
- 2週間以上使用しないときは、電池を取り出してください。

上手な使いかた

クリック音の防止について

- 電源ON/OFF時はクリック音防止のため、ミキサーなど接続機器のボリュームをしばってから行ってください。

ご使用の際は

- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。
- ワイヤレスマイクと本機のあいだに、電波を吸収するコンクリートや大勢の人が入ると、受信レベルが低下し、到達距離が短くなります。
- ENG一体型カメラ使用時に、本機の受信レベル表示が点灯する場合があります。そのままの状態で使用すると、受信感度が低下したり雑音が発生したりすることがあります。2ポイント以上点灯する場合は、カメラと本機の距離を離して使用してください。
- 本機のアンテナを布などで覆わないでください。アンテナの効率が低下し、到達距離が短くなります。
- 本機とワイヤレスマイクは同じ周波数を組み合わせて使用してください。
- ワイヤレスマイクを使用しないときは、使用しないチューナーの電源を切ってください。
- 多チャンネル使用の場合は、受信機間の干渉を避けるため、受信機間の距離を50 cm以上離して使用してください。
- ワイヤレスマイクどうしの距離は50 cm以上離し、ワイヤレスマイクと本機との距離は2 m以上離してください。周波数の干渉により混信を起こし、耳障りな雑音が発生する恐れがあります。
- 本機内部のねじなどは絶対に触らないでください。特性の変化や故障の原因になります。

お手入れについて

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
- 付属のショルダーケースは乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみこませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で、洗剤成分を完全にふき取ってください。

周波数表の見かた

本機を含めたシステムを設定する前に、付属品の周波数表をご確認いただき、周波数プランを決めてください。

周波数表は、両端に周波数とチャンネル呼称（CH呼称）が記載されています。
周波数には、ワイドバンド、ナローバンドに対して、グループとチャンネルがそれぞれ割り振られています。

例えば下図のように、1240.175 MHz（チャンネル呼称：1.2L007）には、ワイドバンドに「02/01」と記載されていますが、これは、グループ02のチャンネル01が割り当てられていることを指しています。

周波数 [MHz]	CH 呼称	ワイドバンド(帯域幅:288kHz)																				ナロー					
		グループ																									
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	51	52	53	54		
1240.025	1.2L001																										
1240.050	1.2L002																										
1240.075	1.2L003																										
1240.100	1.2L004																										
1240.125	1.2L005																										
1240.150	1.2L006	01/01																									
1240.175	1.2L007		02/01																			51/01					
1240.200	1.2L008			03/01																			52/01				
1240.225	1.2L009				04/01																			53/01			
1240.250	1.2L010					05/01																				54/01	
1240.275	1.2L011						06/01																				55/01

しかし、同じ1240.175 MHz（チャンネル呼称：1.2L007）でも、ナローバンドでは「52/01」と記載されていて、グループ52のチャンネル01が割り当てられています。

同じ周波数でも、ワイドバンドとナローバンドでは帯域幅が異なるため、ワイヤレスマイクと受信機で同じバンドにして運用する必要があります。

ワイドバンドは、288 kHzの帯域幅を占有するため、ナローバンドに比べて音質がよくなり、遅延時間も短くなります。

ナローバンドは、占有する帯域幅を192 kHzまで圧縮するため、ワイドバンドに比べて、遅延時間は長くなりますがより多くのワイヤレスマイクを使用することができます。また、瞬間的なパルス性の妨害波が飛び込んだ場合の混信によるノイズや音途切れを防止する性能を強化しています。
上記の条件から、システムで使用するバンドを決めてください。

同時に複数のワイヤレスマイクをご使用になる場合は、すべてのワイヤレスマイクと受信機を同じバンド、同じグループにし、それぞれのワイヤレスマイクを同じグループの中の違うチャンネルに設定するように、チャンネルプランを決めてください。

本機を含めたシステムでは、ワイヤレスマイクどうしによる混信を避けるようにグループを決めており、同じグループ内で運用することで、混信しにくくなります。

違うグループで運用したときに、必ず混信するわけではありませんが、思わぬノイズが発生することがありますので、必ず同じグループの中で運用するように、チャンネルプランを決めてください。

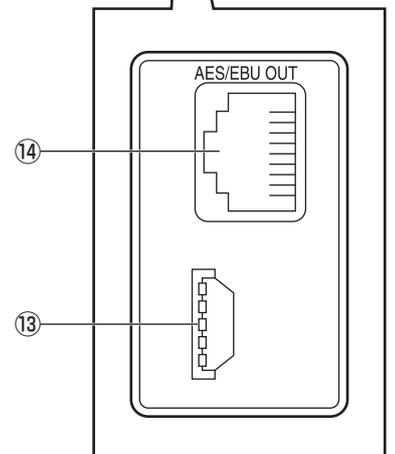
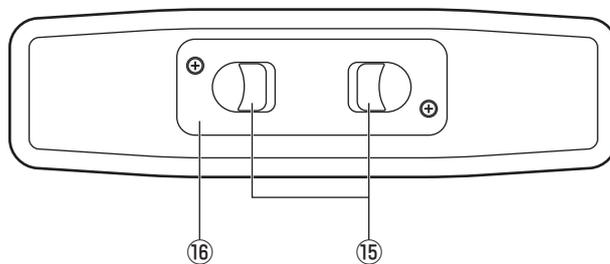
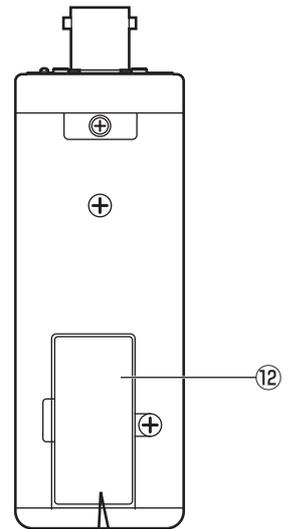
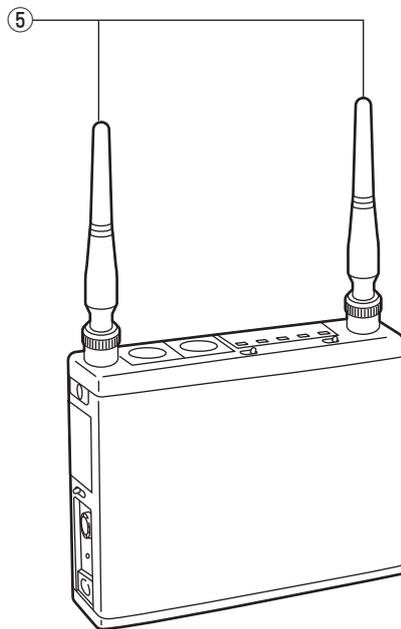
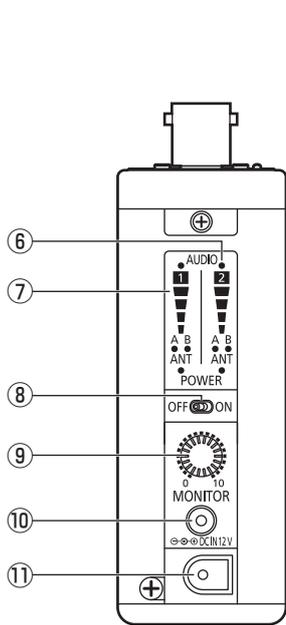
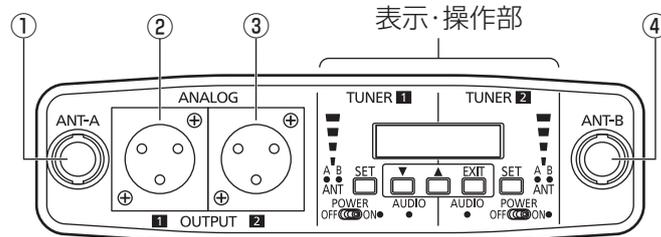
※各機器で表示されるチャンネル呼称（CH呼称）について

周波数表に記載されているチャンネル呼称に対し各機器での表示は「1.2」が省略された表示となっています。

例) 周波数表での表記 [1.2L007] ⇒ 各機器での表示 [L007]

各部の名前とはたらき

■本体

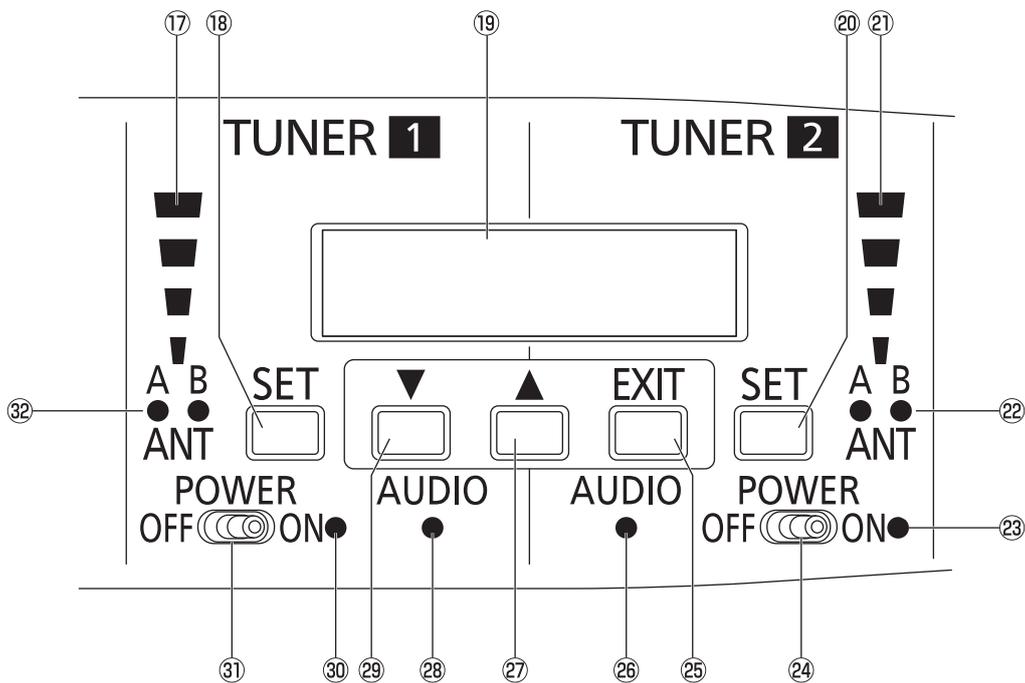


コネクターカバー内部

- ① **アンテナ接続端子A [ANT-A]**
フレキシブルアンテナ（付属品）を接続します。（20ページ）
- ② **チューナー1用アナログ音声出力コネクタ [ANALOG OUTPUT1 [1]]**
キャノンタイプコネクタを接続します。（20ページ）
チューナー1で受信した音声を、②チューナー1用アナログ音声出力コネクタから出力します。
定格-56 dBです。
- ③ **チューナー2用アナログ音声出力コネクタ [ANALOG OUTPUT2 [2]]**
キャノンタイプコネクタを接続します。（20ページ）
チューナー2で受信した音声を、③チューナー2用アナログ音声出力コネクタから出力します。
定格-56 dBです。
- ④ **アンテナ接続端子B [ANT-B]**
フレキシブルアンテナ（付属品）を接続します。（20ページ）
- ⑤ **フレキシブルアンテナ（付属品）**
電波を受信します。
- ⑥ **チューナー2用側面表示**
チューナー2が受信している電波の強さや状態を確認します。確認できる表示については、14ページをお読みください。
- ⑦ **チューナー1用側面表示**
チューナー1が受信している電波の強さや状態を確認します。確認できる表示については、14ページをお読みください。
- ⑧ **側面表示スイッチ**
⑦チューナー1用側面表示と⑥チューナー2用側面表示を使用するときにONにします。（27ページ）
- ⑨ **モニター用ボリューム**
モニター端子の出力音量を調整します。
- ⑩ **モニター端子 [MONITOR]**
ステレオヘッドホンを接続します。（28ページ）
- ⑪ **外部電源端子 [DC IN 12V]**
DC 12 V電源を接続します。（22～23ページ）
- ⑫ **コネクタカバー**
AES/EBUを出力するときに、このカバーを開きます。（21ページ）
- ⑬ **メンテナンス用ポート**
工場メンテナンス用に使用するポートです。何も接続しないでください。
- ⑭ **AES/EBU用コネクタ [AES/EBU]**
本機からのAES/EBU信号出力端子やワードクロック同期信号入力端子を接続するコネクタです。（21ページ）
注）このコネクタは、ネットワークポートではありません。ネットワークには接続しないでください。
- ⑮ **開閉つまみ**
開閉つまみを両側からつまんで手前へ引くと⑯電池ホルダーを外せます。（22～23ページ）
- ⑯ **電池ホルダー**
電池を収納します。（22～23ページ）

各部の名前とはたらき

■表示・操作部



- ①⑦ チューナー1受信レベル表示
チューナー1が受信している電波の強さを4つの表示灯で表示します。
3つ以上点灯している状態であれば、安定した受信をしています。
- ①⑧ チューナー1設定ボタン【SET】
チューナー1側の設定をするときに、設定を確定するときなどに押します。
- ①⑨ 液晶表示
本機の状態や、操作／設定内容を表示します。
- ②⑦ チューナー2設定ボタン【SET】
チューナー2側の設定をするときに、設定を確定するときなどに押します。
- ②⑧ チューナー2受信レベル表示
チューナー2が受信している電波の強さを4つの表示灯で表示します。
3つ以上点灯している状態であれば、安定した受信をしています。
- ②⑨ チューナー2受信アンテナ表示【A】／【B】
チューナー2が受信しているアンテナを表示します。A系アンテナで受信している場合は左側の表示が、B系アンテナで受信している場合は、右側の表示が点灯します。
- ②⑩ チューナー2電源表示【ON】
チューナー2の電源ON／OFF状態や本機の電池残量などを表示します。(22ページ)
- ②⑪ チューナー2電源スイッチ【POWER】
チューナー2の電源をON／OFFします。(24ページ)
- ②⑫ 戻るボタン【EXIT】
本機を設定するときに、設定を確定せずに元の画面に戻るときなどに押します。

②⑥ チューナー2音声出力レベル表示

音声出力のレベルを4段階で表示します。
最大出力レベル（最大変調出力）に対して
0 dB ~ -6 dB : 赤色点灯
-6 dB ~ -12 dB : 橙色点灯
-12 dB ~ -35 dB : 緑色点灯
-35 dB未満 : 消灯
(常温25℃使用時)

②⑦ UPボタン【▲】

本機を設定するときに、設定を選択するときなどに押します。

②⑧ チューナー1音声出力レベル表示

音声出力のレベルを4段階で表示します。
最大出力レベル（最大変調出力）に対して
0 dB ~ -6 dB : 赤色点灯
-6 dB ~ -12 dB : 橙色点灯
-12 dB ~ -35 dB : 緑色点灯
-35 dB未満 : 消灯
(常温25℃使用時)

②⑨ DOWNボタン【▼】

本機を設定するときに、設定を選択するときなどに押します。

③⑩ チューナー1電源表示【ON】

チューナー1の電源ON/OFF状態や本機の電池残量などを表示します。(22ページ)

③⑪ チューナー1電源スイッチ【POWER】

チューナー1の電源をON/OFFします。(24ページ)

③⑫ チューナー1受信アンテナ表示【A】 / 【B】

チューナー1が受信しているアンテナを表示します。A系アンテナで受信している場合は左側の表示が、B系アンテナで受信している場合は、右側の表示が点灯します。

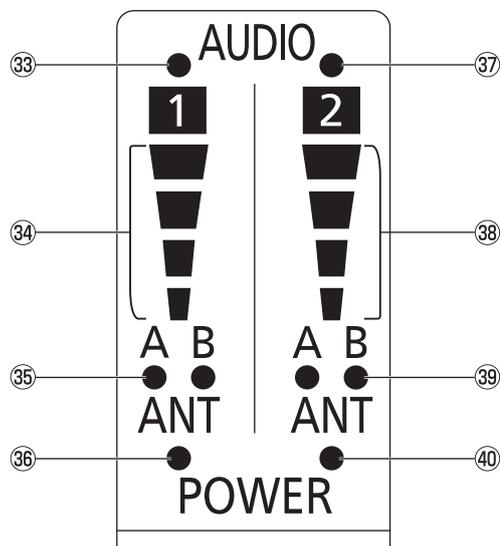


- ボタンは必ず指で操作してください。先の尖ったもので操作すると、故障の原因となります。

重要

各部の名前とはたらき

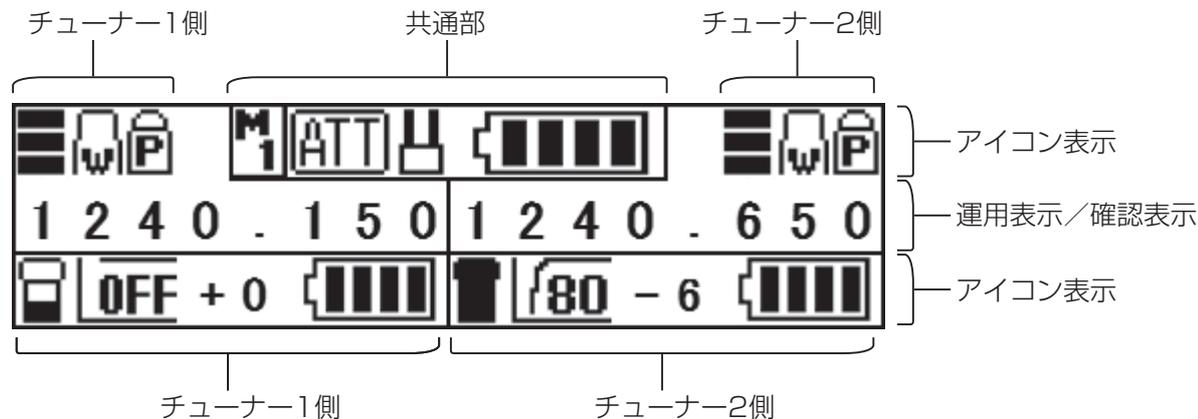
■側面表示



- ③③ チューナー1音声出力レベル表示 [AUDIO]
②⑧チューナー1音声出力レベル表示をお読みください。
- ③④ チューナー1受信レベル表示
①⑦チューナー1受信レベル表示をお読みください。
- ③⑤ チューナー1受信アンテナ表示 [A] / [B]
③②チューナー1受信アンテナ表示をお読みください。
- ③⑥ チューナー1電源表示 [POWER]
③⑩チューナー1電源表示をお読みください。
- ③⑦ チューナー2音声出力レベル表示 [AUDIO]
②⑥チューナー2音声出力レベル表示をお読みください。
- ③⑧ チューナー2受信レベル表示
②①チューナー2受信レベル表示をお読みください。
- ③⑨ チューナー2受信アンテナ表示 [A] / [B]
②②チューナー2受信アンテナ表示をお読みください。
- ④④ チューナー2電源表示 [POWER]
②③チューナー2電源表示をお読みください。

各部の名前とはたらき (液晶表示)

ここでは、表示・操作部の液晶表示の見かたを説明します。



はじめに

■液晶表示の構成

本機の液晶表示では、大きく分けて左側にチューナー1、右側にチューナー2の情報を表示します。また、1段目の中央部には本機の情報を表示する共通部があります。1段目と3段目の表示では、アイコン表示などでワイヤレスマイクや本機の状態を表示します。

■受信機情報重視表示とワイヤレスマイク情報重視表示

運用モード中にチューナー1設定ボタン [SET] を押すと受信機情報重視表示となり、チューナー2設定ボタン [SET] を押すとワイヤレスマイク情報重視表示になります。

受信機情報重視表示では、主に本機のそれぞれのチューナーの状態を表示し、合わせてワイヤレスマイクの状態もアイコンで表示します。



受信機情報重視表示

また、ワイヤレスマイク情報重視表示では、それぞれのチューナーが受信しているワイヤレスマイクの状態を主に表示し、合わせて本機の状態もアイコンで表示します。ワイヤレスマイク情報重視表示のときには、左上に「MIC」という白文字が表示されます。



ワイヤレスマイク情報重視表示

詳細な操作方法は、31ページをご覧ください。

■運用表示と確認表示

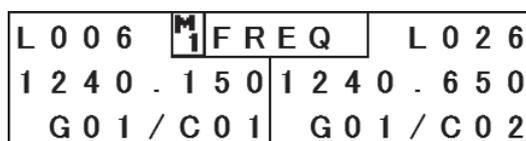
運用モード中にチューナー1設定ボタン [SET] を押すと、運用表示と確認表示を切り替えることができます。

運用表示は、1段目と3段目にアイコン表示で各設定状態、受信状態の概要を表示し、2段目に詳細な情報が表示されます。この状態でUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、2段目の表示を切り替えることができます。



運用表示

また、確認表示は、1段目～3段目に詳細な設定状態、受信状態を表示します。この状態でUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、他の情報の表示に切り替えることができます。



確認表示

詳細な操作方法は、31ページをご覧ください。

工場出荷時は、簡易画面表示（受信機情報重視表示の運用表示）になっています。詳細は簡易画面表示（33ページ）をご覧ください。

各部の名前とはたらき (液晶表示)

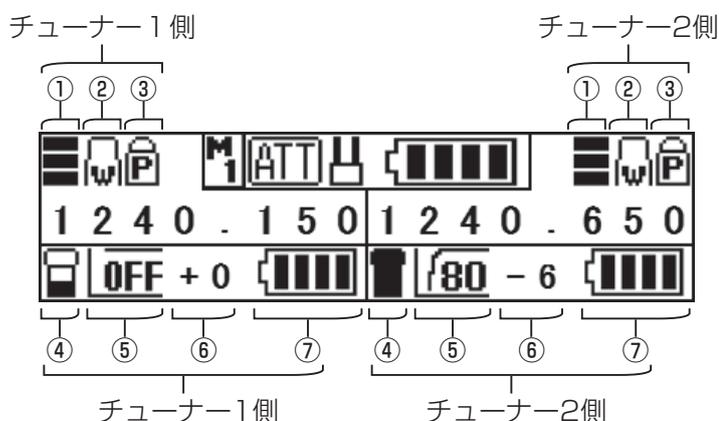
■運用モードで確認できる項目

運用モード中にチューナー1設定ボタン [SET] やUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して確認できる項目は、下表のとおりです。

受信機情報重視表示		ワイヤレスマイク情報重視表示	
運用表示	確認表示	運用表示	確認表示
周波数表示	周波数表示	ワイヤレスマイク電池電圧表示	ワイヤレスマイク電池残量表示
グループ・チャンネル表示	バンド表示	ワイヤレスマイク使用時間表示	送信出力設定表示
チャンネル呼称表示	アンテナアッテネーター表示	ワイヤレスマイクメモリー名表示	ワイヤレスマイク音量表示
本機の内部電池情報表示	本機の内部電池情報表示	ワイヤレスマイク名表示	ローカットフィルター設定表示
本機の外部電源情報表示	本機の外部電源情報表示		ローブースト設定表示
	本機のキーコード表示		ワイヤレスマイク電池タイプ表示
	キーコードスケルチ設定表示		ワイヤレスマイク電池電圧表示
	間欠受信モード設定表示		ワイヤレスマイク使用時間表示
	AES/EBU出力ON/OFF表示		プライベート通信設定表示
	AES/EBU出力設定表示		リモートコントロール設定表示
	AES/EBUクロック同期設定表示		電源ON時情報表示設定表示
	AES/EBUクロック同期信号終端設定表示		スタンバイモード設定表示
	無操作タイムアウト時間設定表示		ワイヤレスマイク名表示
	本機のメモリー名表示		ワイヤレスマイクメモリー名表示

■液晶表示のアイコンについて

運用モード中、本機の液晶表示の上段に下記のアイコンで、ワイヤレスマイクと本機の状態を表示します。



①受信品質表示

ワイヤレスマイクからの受信に対して、デジタル信号エラー補正状態を、4段階で表示します。

-  (3段とも表示)：最もエラー補正していない状態
-  (1段だけ表示)：最もエラー補正している状態
-  (表示なし)：受信していない状態

②バンド (42ページ)

バンド (ワイド、ナロー) の本機の設定状態と、ワイヤレスマイクとの設定の関係を表示します。

-  (点灯)：ワイドバンド受信 (ワイヤレスマイクと設定が同じ)
-  (点滅)：ワイドバンド設定 (ワイヤレスマイクと設定が異なる)
-  (点灯)：ナローバンド受信 (ワイヤレスマイクと設定が同じ)
-  (点滅)：ナローバンド設定 (ワイヤレスマイクと設定が異なる)

③キーコードスケルチ設定／プライベート通信設定表示

本機のキーコードスケルチ設定状態 (47ページ)、およびワイヤレスマイクのプライベート通信設定状態について、下記のように表示します。ワイヤレスマイクのプライベート通信設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご確認ください。

-  (点灯)：本機でキーコードスケルチ設定状態で、音声受信中 (本機とワイヤレスマイクのキーコードが同じ)
-  (点滅)：本機でキーコードスケルチ設定状態で、音声非受信中 (本機とワイヤレスマイクのキーコードが異なる)
-  (点灯)：ワイヤレスマイクでプライベート通信設定状態で、音声受信中 (本機とワイヤレスマイクのキーコードが同じ)
-  (点滅)：ワイヤレスマイクでプライベート通信設定状態で、音声非受信中 (本機とワイヤレスマイクのキーコードが異なる)
- (消灯)：キーコードスケルチ設定もワイヤレスマイクのプライベート通信設定もしていない

④ワイヤレスマイク送信出力設定表示

ワイヤレスマイクの送信出力設定状態について、下記のように表示します。ワイヤレスマイクの送信出力設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご確認ください。

- | | | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|---|----------------------|
|  | : 2 mW (WX-DT110など) |  | : 2 mW (WX-DT120など) |  | : 2 mW (WX-DT130など) |
|  | : 10 mW (WX-DT110など) |  | : 10 mW (WX-DT120など) |  | : 10 mW (WX-DT130など) |
|  | : 20 mW (WX-DT110など) |  | : 20 mW (WX-DT120など) |  | : 20 mW (WX-DT130など) |

各部の名前とはたらき (液晶表示)

⑤ ワイヤレスマイクロブースト、ローカットフィルター設定表示 (37ページ)

ワイヤレスマイクで設定したローブースト状態、ローカットフィルター状態を組み合わせで表示します。

 : ローブースト なし

 : ローカットフィルター OFF

 : ローブースト 1

 : ローカットフィルター 60 Hz

 : ローブースト 2

 : ローカットフィルター 80 Hz

 : ローカットフィルター 100 Hz

 : ローカットフィルター 125 Hz

⑥ ワイヤレスマイク音量設定表示

ワイヤレスマイクで設定した音量をdB単位で表示します。ワイヤレスマイクの音量設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご確認ください。

⑦ ワイヤレスマイク電池残量設定表示

電池の残量を5段階で表示します。表示は、ワイヤレスマイクと同じのため、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご確認ください。



⑧ ワイヤレスマイクスタンバイ設定表示

ワイヤレスマイクで設定したスタンバイモード設定を表示します。ワイヤレスマイクスタンバイ設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

 : ワイヤレスマイクのスタンバイモード設定ON

(消灯) : ワイヤレスマイクのスタンバイモード設定OFF

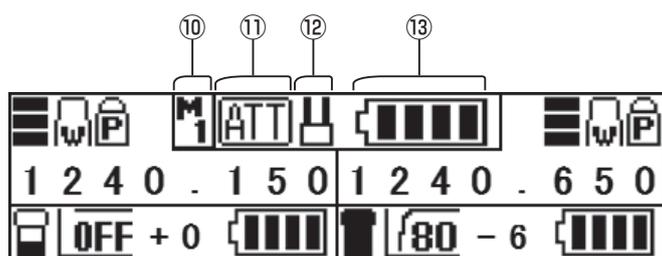
⑨ ワイヤレスマイクリモートコントロール設定表示

ワイヤレスマイクで設定したリモートコントロール設定を表示します。ワイヤレスマイクリモートコントロール設定については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

 (点灯) : ワイヤレスマイクで、リモートコントロール設定ON

 (点滅) : ワイヤレスマイクで、リモートコントロール通信中

(消灯) : ワイヤレスマイクで、リモートコントロール設定OFF



⑩ メモリー番号表示 (58ページ)

呼び出した本機のメモリー番号を表示します。

: 呼び出したメモリー番号 (呼出し後に設定変更なし)

: 呼び出したメモリー番号 (呼出し後に設定変更あり)

※運用モードの運用表示のとき、1つでも設定が変更されていると反転表示します。それ以外の表示では、表示されている設定が変更されていると反転表示します。

⑪ アンテナアッテネーター設定表示 (44ページ)

設定したアンテナのアッテネーター設定状態を表示します。

: アッテネーター設定ON

(消灯) : アッテネーター設定OFF

⑫ 間欠受信設定表示 (47ページ)

間欠受信の設定状態を表示します。

: 間欠受信設定ON

(消灯) : 間欠受信設定OFF

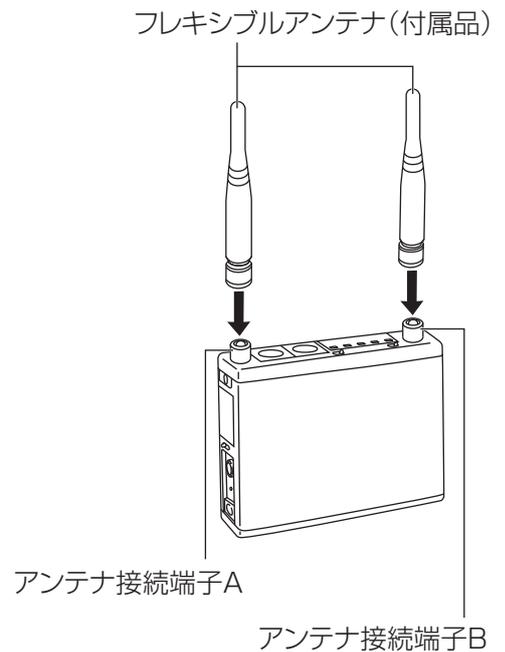
⑬ 本機の電池残量表示 (22ページ)

電池の残量を5段階で表示します。

アンテナの接続

1 アンテナ接続端子A、アンテナ接続端子Bそれぞれに、フレキシブルアンテナ（付属品）を接続する

- フレキシブルアンテナは、アンテナ接続端子を保護するために、使用しないときでもできるだけ外さないでください。

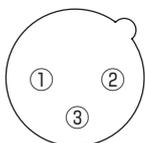


アナログ音声出力コネクタの接続

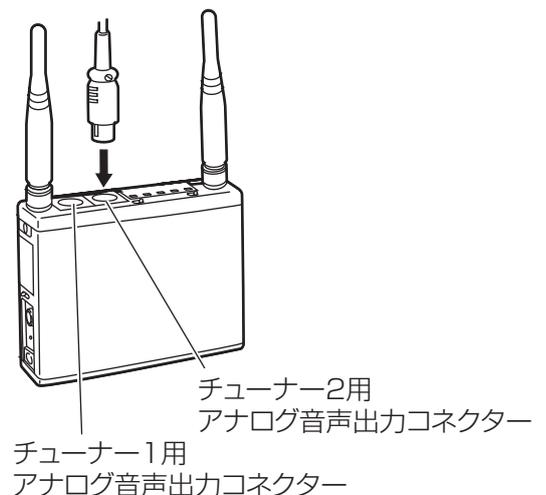
1 チューナー1、2用アナログ音声出力コネクタにキャノンタイプコネクタ（XLR-3-11C）をそれぞれ接続する

- ミキサーなど接続機器のマイク入力端子に接続してください。
- アナログ音声出力コネクタ**
チューナー1、チューナー2とも、ピン配列は同じです。

<キャノンタイプコネクタピン配列>



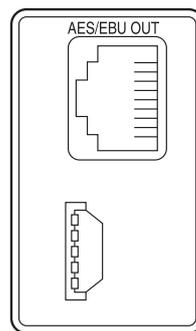
- ①GND（アース）
- ②HOT（ホット）
- ③COLD（コールド）



AES／EBU用コネクタの接続

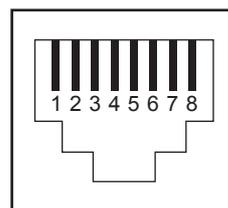
1 側面のコネクタカバーを開ける

付属品のショルダーケースをご使用になるときは、この接続よりも先にショルダーケースに装着してから開けてください。(27ページ)



2 AES／EBUコネクタから必要な端子を選択する

本機は、RJ-45コネクタに対して、右図のようにピン配列しています。必要な端子を選択し、変換ケーブルなどを自作していただき、それを介して接続機器に接続してください。



- このコネクタにはLANなどのネットワークを接続しないでください。

HOT	COLD	信号名
2	1	AES／EBU出力1
4	5	AES／EBU出力2
8	7	ワードクロック同期信号入力
GND		
3、6		GND (アース)

3 音声の出力システムを設定、接続する

本機にはAES／EBUの出力が2系統があります。チューナー1、2の音声を、どの系統に出力するかを設定してください。(48ページ)
設定に合わせて、AES／EBUコネクタから接続機器に接続してください。

4 ワードクロック同期を設定する

本機ではAES／EBU信号のワードクロック同期信号を入力することができます。同期元を決めて、外部のワードクロック同期設定を行ってください。(49ページ)
外部同期信号を入力するときは、AES／EBUコネクタから同期元の機器に接続してください。

また、このコネクタで配線を分岐して、別の機器にもワードクロック同期信号を渡すときは、本機でワードクロック同期信号終端設定をOFFにしてください。(ワードクロック同期信号が本機で終わるときは終端設定をONにしてください) (49ページ)

電源の準備

本機の電源は、電池または外部電源から供給することができます。

電池を使用する場合は、電池ホルダーに単3形アルカリ電池、または単3形ニッケル水素充電電池を入れ、本機に取り付けます。

電源ランプなどでの電池残量を正しく表示するために、ご使用になる電池に合わせて、本機の設定で電池タイプを設定してください。工場出荷設定状態はアルカリ電池です。(44ページ)

外部電源を使用する場合は、本機側面の外部電源端子にDC 12 V電源を接続してください。

■ 電池を入れる／取り出す

電池を交換するときは、チューナー1、2の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。電池が消耗してくると、雑音の出る恐れがあります。どちらかのチューナーの電源表示が赤色になりましたら、早めに電池を交換してください。



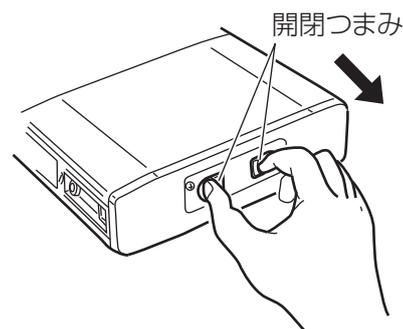
- 電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良や雑音が発生する原因になります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。(8ページ)
- 使用しないときは、必ず電池を取り出してください。液漏れの原因になります。
- 電池の種類ごとに使用可能時間は変わりますので、下の表を目安にしてください。

電源ランプの状態	電池残量アイコン表示	電池残量 (使用可能時間の目安)		
		電池の残量	アルカリ乾電池	ニッケル水素充電電池
緑色点灯		約100 %～75 %	約3時間以上	約4時間30分以上
		約75 %～50 %	約2時間以上	約3時間以上
		約50 %～25 %	約1時間以上	約1時間30分以上
橙色点灯		約25 %未満	残量が少なくなっています	残量が少なくなっています
赤色点灯		残量がありません。電池を交換してください。		
消灯	消灯	電源OFF状態		

- 上記の使用時間は、以下の条件で連続使用した場合の時間です。
単3形アルカリ乾電池 LR6(XJ) 1.5 V × 4本
単3形ニッケル水素電池 BK-3MCC 1.2 V × 4本
[デジタル出力(AES/EBU)=OFF、LCDバックライト=消灯、温度=25 °C時]
- 電源ランプは、本機のモードが、間欠受信モード、メモリーモード、メニューモードになっているときは点滅します。

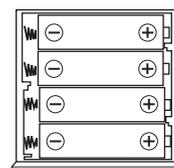
1 電池ホルダーを外す

- 底面の開閉つまみを両側からつまんで手前にスライドさせると、電池ホルダーを外すことができます。



2 電池ホルダーに電池を入れる

- 単3形電池4個を電池ホルダーの+、-の表示に合わせて、一側に押しながら挿入します。



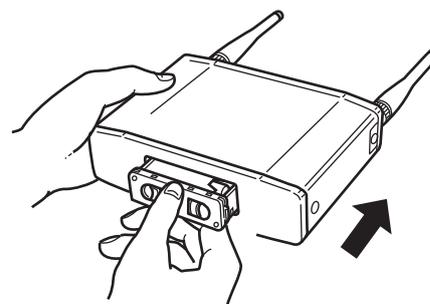
3 電池を取り出す場合

電池を入れるときと同じ手順で電池ホルダーを外し、電池を取り出します。

- 電池を取り出すときは、電池を一側に押しながら、+側から取り出します。

4 電池ホルダーを元どおりに取り付ける

- パチンと音がしてロックするまで、電池ホルダーをしっかりと押し込みます。
※電池ホルダーはどちらの向きでも取り付けることができます。



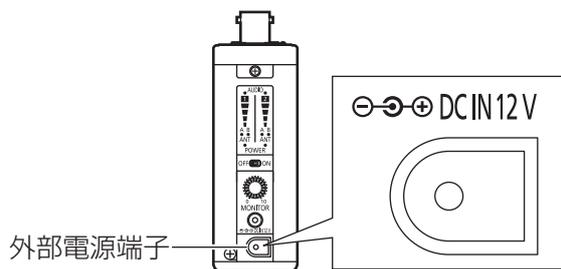
■ 予備の電池ホルダー（付属品）について

予備の電池ホルダーに、あらかじめ電池を入れておくと、使用中、電池残量が少なくなったときに電池の交換を円滑に行うことができます。

■ 外部電源を接続する

DC 12 V電源を外部電源端子に接続します。

- 接続可能電源プラグ
プラグ径：外径φ5.5 mm
 内径φ2.0 mm
極性 ：プラグの外側の電極を正（+）
 中心電極を負（-）



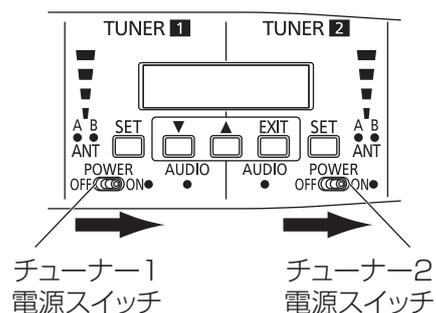
- 安全のため、DC 12 V電源と外部電源端子の間には導体の径が1 mm以上のケーブルを使用し、DC 12 V・300 mA～500 mAのヒューズを入れて使用してください。
- シガーソケットから電源を供給する場合に雑音が出ることがあります。エンジンを停止するか電源供給ラインにフィルターを入れて使用してください。
- 電源表示が赤色点灯中に外部電源端子から電源を供給しても電源表示は変わりません。
- 外部電源端子に接続する電源プラグの極性を間違えないよう、使用前に必ず確認してください。
- 使用しないときは、外部電源端子から電源プラグを抜いてください。
- 接続する外部電源の電流容量は、2 A以上のものを使用してください。
- 外部電源と電池は併用可能です。外部電源からの供給は、電圧が約11 Vまでで、それ以下では電池からの供給に切り換わります。

使用するチューナーの電源を入れる／切る

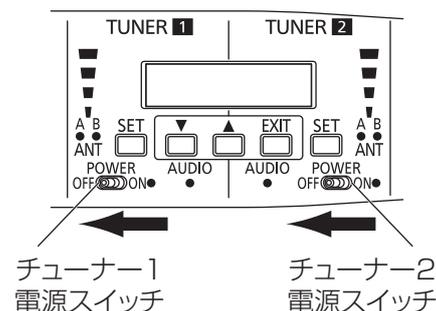
1 使用するチューナーの電源スイッチをONにする

- 電源を入れると前回使用されていた設定状態で起動します。

※電源スイッチをONにしてから音が出るまで2秒程度かかります。



2 使用しているチューナーの電源を切るときは、電源を切りたいチューナーの電源スイッチをOFFにする



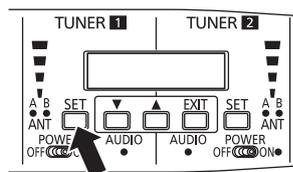
周波数を設定する

- 重要**
- 周波数を設定する前に、必ず「周波数表の見かた」(9ページ)をご確認の上、チャンネルプランを検討してください。複数のワイヤレスマイクを使ってシステムを組むときに、ノイズ等の原因になります。
 - 混信や妨害波の影響を避けるために、周波数を設定する前に周波数スキャン(53ページ)を実施し、妨害波のないグループ・チャンネルを使用してください。

ここでは、チューナー1側を例にして、周波数の設定について説明します。
詳細な設定の方法は、42ページ以降をご覧ください。

1 本機を設定モードにする

簡易画面表示から設定モードにするには、UPボタン[▲]またはDOWNボタン[▼]を1回押した後に、チューナー1設定ボタン[SET] (またはチューナー2設定ボタン[SET])を長押しします。液晶表示の1段目が反転表示になります。

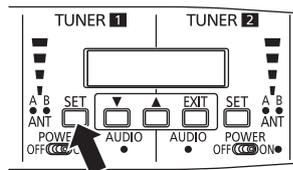
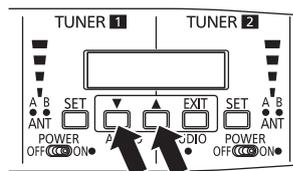


基本操作

2 BAND・FREQUENCYを選択する

UPボタン[▲]、DOWNボタン[▼]を押して、「BAND・FREQUENCY」を表示させ、チューナー1設定ボタン[SET]を押します。液晶表示のチューナー1側2段目が反転点滅表示になります。

注) チューナー2側が反転点滅表示になったときは、チューナー1設定ボタン[SET]を押してください。

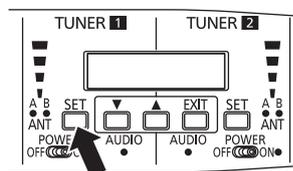
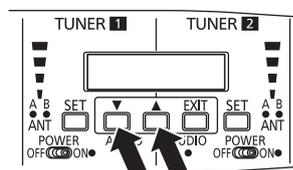


3 BANDを選択する

UPボタン[▲]、DOWNボタン[▼]を押して「WIDE」または「NARROW」を選択し、チューナー1設定ボタン[SET]を押します。

WIDE : ワイドバンド (占有帯域幅: 288 kHzで受信する低遅延用の設定です)

NARROW : ナローバンド (占有帯域幅: 192 kHzで受信する多チャンネル用および耐ノイズ性の設定です)



周波数を設定する

4 グループを選択する

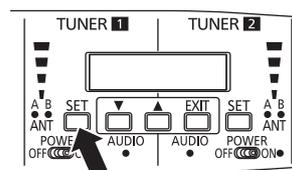
WIDE、NARROWを選択すると、そのまま周波数設定にカーソルが切り替わります。

チューナー1設定ボタン [SET] を2回押して、グループの選択にカーソルを移動させます。

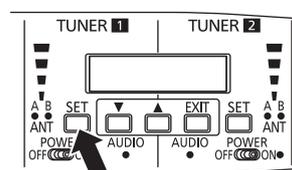
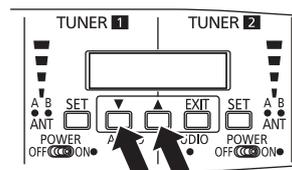
UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して、チャンネルプランに従ったグループを選択し、チューナー1設定ボタン [SET] を押します。



- グループを選択すると、該当する周波数とチャンネル呼称の表示に変わります。



L 0 0 6	M1 FREQ	L 0 2 6
1 2 4 0 . 1 5 0		1 2 4 0 . 6 5 0
G 0 1 / C 0 1		G 0 1 / C 0 2



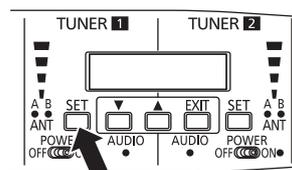
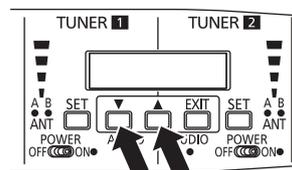
5 チャンネルを選択する

グループを選択すると、そのままチャンネルにカーソルが移動します。UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して、チャンネルプランに従ったチャンネルを選択し、チューナー1設定ボタン [SET] を押します。



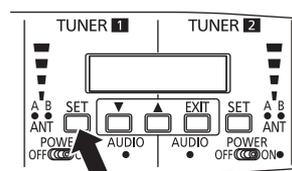
- チャンネルを選択すると、該当する周波数とチャンネル呼称の表示に変わります。

L 0 0 6	M1 FREQ	L 0 2 6
1 2 4 0 . 1 5 0		1 2 4 0 . 6 5 0
G 0 1 / C 0 1		G 0 1 / C 0 2



6 周波数の選択を確定させる

チャンネルを選択したら、再度チューナー1設定ボタン [SET] を押して、周波数の設定を確定させます。液晶画面が、再度「BAND・FREQUENCY」に戻ります。



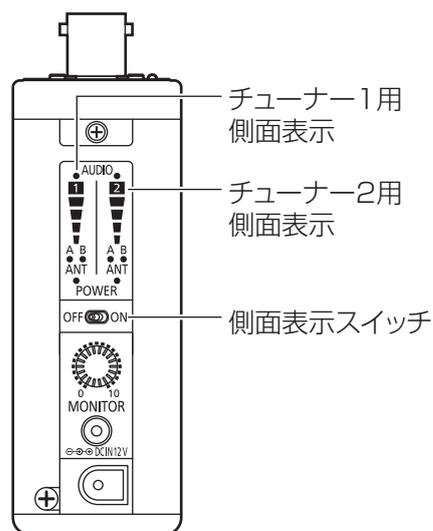
M1 BAND・FREQUENCY	
W : WIDE	W : WIDE
G 0 1 / C 0 1	G 0 1 / C 0 2

途中で、チューナー2設定ボタンを押すと、チューナー2側の上記手順の3になり、それまでのチューナー1の設定は確定になります。もう一度、チューナー1設定ボタン [SET] を押すと、チューナー1の設定に戻ります。

側面表示の使いかた

側面表示スイッチをONにすると、表示・操作部の電源表示、音声出力レベル表示、受信レベル表示、受信アンテナ表示をそれぞれのチューナー側面表示で確認できます。ただし、電源スイッチがOFFになっているチューナーの表示は確認できません。

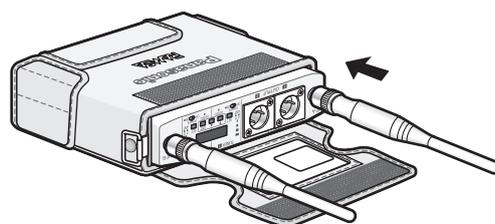
- 電池の消耗を抑えるため、側面表示を使用しないときは、側面表示スイッチをOFFにしてください。



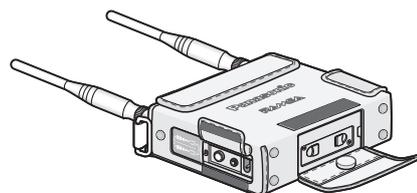
本機をショルダーケースに装着する

本機を使用するときは、ショルダーケース（付属品）に入れて使用してください。

1 ショルダーケースの上面を開け、本機を挿入する



- 本機をショルダーケースに入れたまま底面を開けると、電池の交換ができます。また、側面を開けると、モニター用ボリュームで音声出力の音量を調節でき、AES/EBUコネクターを接続することができます。

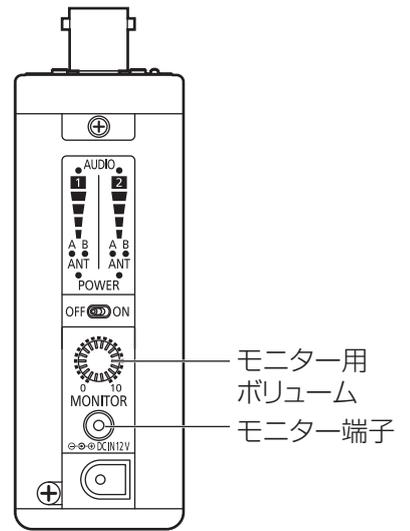


- ショルダーケースは、ベルトをケースフック金具に通し、ベルトフック部で抜け落ちないように正しく取り付けられていることを確認してから使用してください。取り扱い方法や固定方法を誤ると、高所で使用の際に落下の恐れがあり、けがや故障の原因になります。

モニターを接続する

ステレオヘッドホンのステレオミニプラグをモニター端子に接続します。

- ステレオヘッドホンからの出力は、以下のようになります。
 - **チューナー1の電源スイッチのみON**
ステレオヘッドホンのL側R側両方にチューナー1で受信した音声を出します。
 - **チューナー2の電源スイッチのみON**
ステレオヘッドホンのL側R側両方にチューナー2で受信した音声を出します。
 - **チューナー1、2両方の電源スイッチがON**
ステレオヘッドホンのL側にチューナー1、R側にチューナー2で受信した音声を出します。
- 音声出力の音量はモニター用ボリュームで調節します。



- モニター端子に接続するプラグはステレオミニプラグ（ $\phi 3.5$ mm）を使用してください。モノラルタイプを使用すると、モニター回路がショートして正しく動作しません。
- このモニター端子は受信の確認用のもので、チューナー間のクロストークが約45 dBあります。
- 片方のチューナーの電源スイッチをON/OFFするとき、モニター端子からの出力が1～2秒ミュートされます。
- 両方のチューナーを同時に使用しているときに電源電圧が低くなると、モニター動作が不安定になる場合があります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

本機の名モード

本機には、通常にご使用のときのモードの他にいろいろなモードがあります。
ここでは、本機の名モードについて、説明します。

■ 運用モード (31ページ)

- 通常のご使用のときのモードです。

■ 簡易設定モード (39ページ)

- 運用モード (簡易表示) から遷移し、設定を行うモードです。
- このモードのときは電波が送信されません。

■ 設定モード (40ページ)

- グループやチャンネルなどの本機の設定を行うモードです。

■ クイック設定モード (51ページ)

- メモリーモードで設定した設定画面を呼び出して、すばやく設定ができるモードです。

■ 間欠受信モード (52ページ)

- 本機では、電池の消耗を抑えるために、ワイヤレスマイクが送信している間だけ受信する設定にすることができます。
- 間欠受信モードは、ワイヤレスマイクの電波を受信しなくなったときに、省電力状態になっている状態です。
- 間欠受信モード中は、本機は電波を受信せずに、定期的にワイヤレスマイクからの受信を監視します。
- 間欠受信モード中は、電源表示 [ON] が点滅します。

■ 周波数スキャンモード (53ページ)

- 運用モードで使用する前に、周辺の電波状況を確認するためのモードです。
- 周波数スキャンモードには、「リアルタイムスキャン」と「マックスホールドスキャン」があります。
- 周波数スキャンモード中は、通常のワイヤレスマイクからの電波の受信はできません。

■ メモリーモード (57ページ)

- 本機の設定パターンを保存したり、保存された設定パターンを呼び出して本機に設定したりすることができるモードです。
- メモリーモード中は、電源表示 [ON] が点滅します。

■ メニューモード (63ページ)

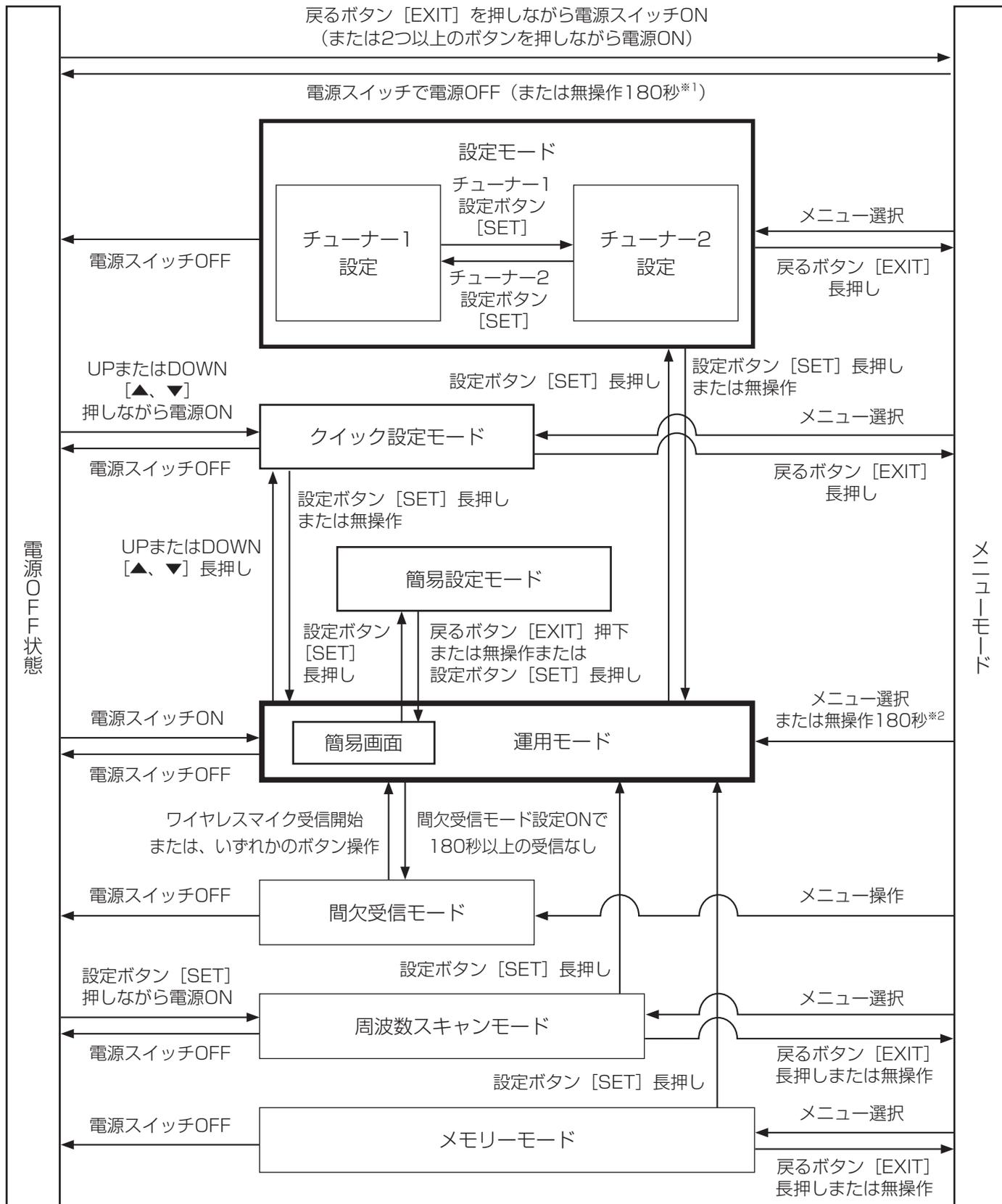
- 上記の名モードを選択するためのモードです。
- メニューモード中は、電源表示 [ON] が点滅します。

本機各モード

■ 各モードへの遷移方法

ここでは、本機各モード間の操作方法を簡易的に図示します。

なおこの説明では、電源スイッチはチューナー1、2の両方とも同時に操作することを前提としています。



※1 電源OFF状態、周波数スキャンモード、メモリーモードからメニューモードに遷移したとき

※2 運用モード、設定モード、クイック設定モードからメニューモードに遷移したとき

必要なとき

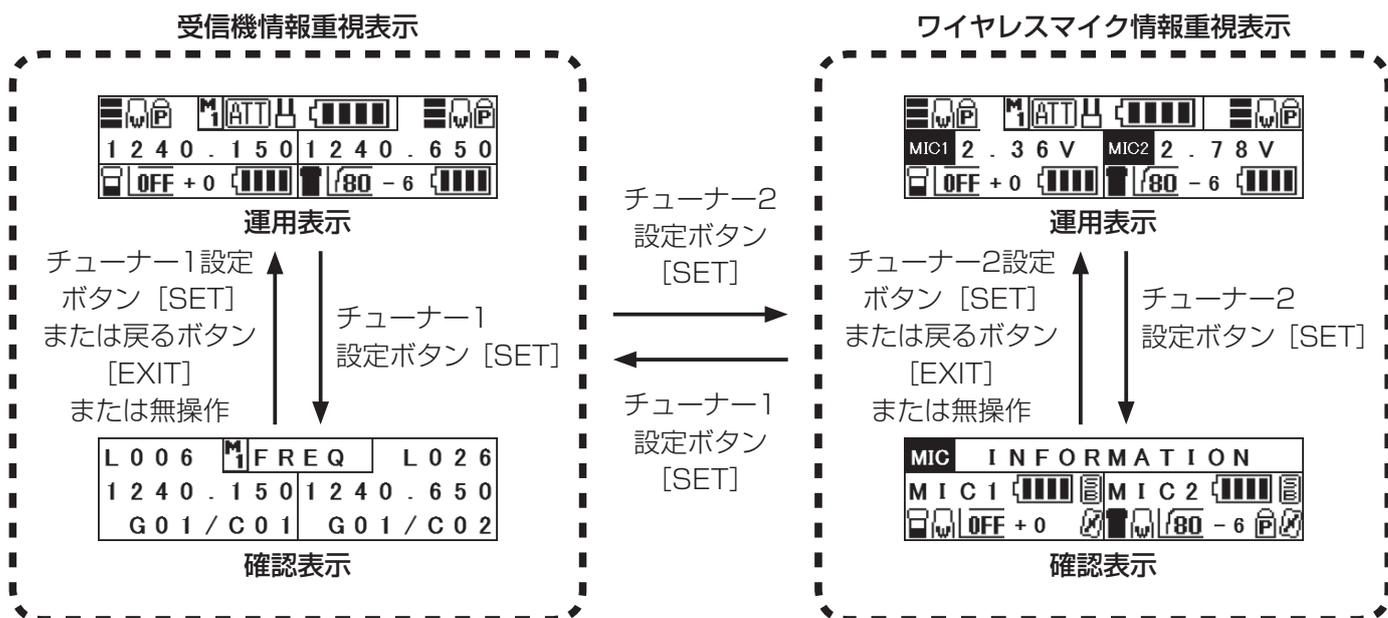
運用モード

運用モードは、本機の通常使用時のモードです。

■ 運用モードの画面切り換え

運用モードの液晶表示には、本機の情報を中心に表示する「受信機情報重視表示」とワイヤレスマイク情報を中心に表示する「ワイヤレスマイク情報重視表示」があります。また、それぞれの重視表示には、運用状態を表示する「運用表示」と設定状態を表示する「確認表示」があります。(15ページ)

それぞれの表示は、下図の操作で切り替わります。



必要なとき

■ チューナーの電源がOFFのときの表示

チューナー1、チューナー2ともに電源がOFFのとき、液晶表示には何も表示されませんが、片側のチューナーだけが電源OFFのときは、電源OFF側のチューナーに対して下図のように3段目に「TU1: OFF」、 「TU2: OFF」と表示されます。



チューナー1の電源がOFFの例



チューナー2の電源がOFFの例

■ ワイヤレスマイクを受信していないときの表示

ワイヤレスマイクを受信していないときは、下図のように「NO DATA」と表示されます。



チューナー1で受信していない例

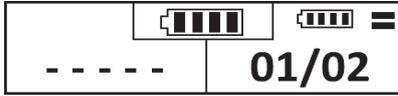


チューナー2で受信していない例

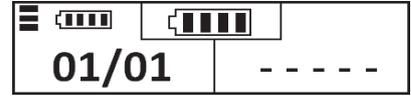
運用モード

■ 簡易画面時に、チューナー電源OFFのときの表示

片側のチューナーだけが電源OFFのときは、下図のように1段目アイコン非表示かつ2段目「-----」と表示されます。



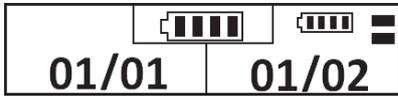
チューナー1の電源がOFFの例



チューナー2の電源がOFFの例

■ 簡易画面時に、ワイヤレスマイクを受信していないときの表示

ワイヤレスマイクを受信していないときは、下図のように1段目アイコン非表示となります。



チューナー1で受信していない例



チューナー2で受信していない例

運用モード

■「受信機情報重視表示」／「確認表示」の液晶表示

運用モードでご使用中に、受信機情報重視表示の確認表示のときに、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、本機の液晶表示は、下記のように遷移します。

L 0 0 6	M1 FREQ	L 0 2 6
1 2 4 0 . 1 5 0	1 2 4 0 . 6 5 0	
G 0 1 / C 0 1	G 0 1 / C 0 2	

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 BAND	
TU 1	TU 2
W : WIDE	W : WIDE

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 RF ATT
TU 1 & TU 2
A : ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 INT BATT INFO
TU 1 & TU 2 ALKALINE
INT: 4 . 3 5 V / 0 5 : 0 4

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 EXT BATT INFO
TU 1 & TU 2
EXT: 1 2 . 5 V / 0 3 : 5 7

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 KEY CODE	
TU 1	TU 2
0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 KEY CODE SQ	
TU 1	TU 2
🔒 : OFF	🔒 : ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1 INTERMITTENT
TU 1 & TU 2
⏸ : ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<周波数表示>

表示内容：(1段目) チャンネル呼称
(2段目) 受信周波数 [MHz]
(3段目) グループ／チャンネル

<バンド表示>

表示内容：設定しているバンド (周波数帯)
設定候補：WIDE／NARROW

<アンテナアッテネーター表示>

表示内容：設定しているアンテナアッテネーター
設定候補：OFF／ON

<本機の内部電池情報表示>

表示内容：(2段目) 本機の電池タイプ設定
(3段目) 本機の電池電圧／使用時間
設定候補：(2段目) ALKALINE／Ni-MH

<外部電源情報表示>

表示内容：外部電源電圧／使用時間

<本機のキーコード表示>

表示内容：設定しているキーコード
設定候補：8桁の英数字、記号

<キーコードスケルチ設定表示>

表示内容：キーコードスケルチ設定状態
設定候補：OFF／ON

<間欠受信モード設定表示>

表示内容：間欠受信モード設定状態
設定候補：OFF／ON

必要なとき

M1	AES / EBU ON / OFF
TU 1 & TU 2	
AES / EBU : ON	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1	AES / EBU OUT
TU 1 & TU 2	
OUT : 1 & 2 → TU 1 & TU 2	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1	WORD SYNC
TU 1 & TU 2	
WORD SYNC : OFF	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1	REF TERM ON / OFF
TU 1 & TU 2	
REF TERM : ON	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1	RETURN TIMER
TU 1 & TU 2	
3 s	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

M1	MEMORY NAME
TU 1 & TU 2	
MEMORY - 1	

↑ ↓ UP、DOWNボタン [▲、▼]

＜周波数表示＞に戻る

＜AES / EBU出力ON / OFF表示＞

表示内容：本機からのAES / EBU 出力のON / OFF設定状態
設定候補：OFF / ON

＜AES / EBU出力設定表示＞

表示内容：AES / EBU1 / 2出力とチューナー1 / 2の関係の設定状態
設定候補：1 → TU1 / 2 → TU2 / 1 & 2 → TU1 & 2

＜AES / EBUクロック同期設定表示＞

表示内容：AES / EBU信号の外部ワードクロック同期設定
設定候補：OFF / ON

＜AES / EBUクロック同期信号終端設定表示＞

表示内容：AES / EBUクロック同期信号の終端設定
設定候補：OFF / ON

＜無操作タイムアウト時間設定表示＞

表示内容：設定している無操作タイムアウト時間設定
設定候補：3秒 / 6秒 / 12秒 / 30秒

＜本機のメモリー名称表示＞

表示内容：設定しているメモリー名称
設定候補：8桁の英数字、記号

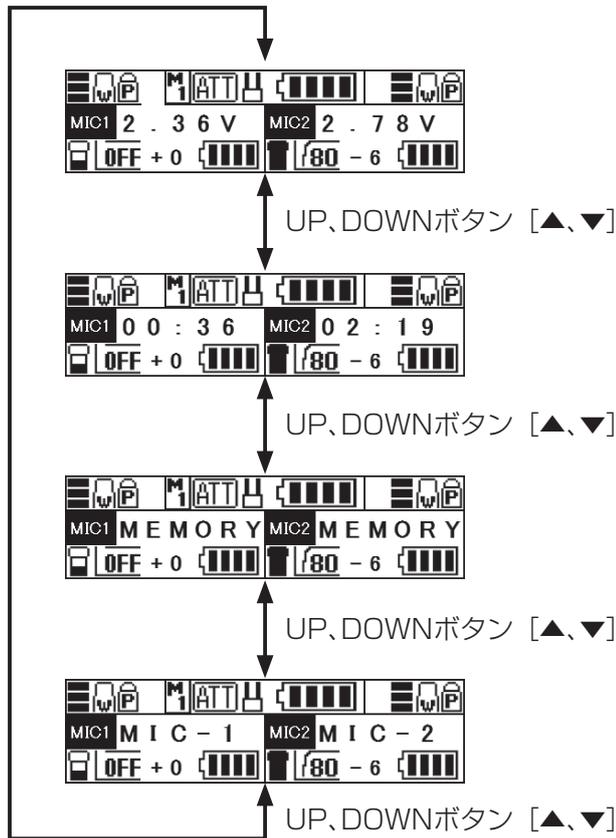
必要なとき

運用モード

■「ワイヤレスマイク情報重視表示」／「運用表示」の液晶表示

運用モードでご使用中に、ワイヤレスマイク情報重視表示の運用表示のときに、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押し、本機の液晶表示は、下記のように遷移します。表示内容については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

アイコンの表示については、17ページをご覧ください。



<ワイヤレスマイク電池電圧表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの電池残量

※アイコンの見かたはワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

<ワイヤレスマイク使用時間表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの使用時間

※ワイヤレスマイクで管理している使用時間を表示します。詳しくはワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

<ワイヤレスマイクメモリー名表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのメモリー名

※最大6文字まで表示します。

<ワイヤレスマイクマイク名表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのマイク名

※最大6文字まで表示します。

必要なとき

■「ワイヤレスマイク情報重視表示」／「確認表示」の液晶表示

運用モードでご使用中に、ワイヤレスマイク情報重視表示の確認表示のときに、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、本機の液晶表示は、下記のように遷移します。表示内容については、ワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

MIC INFORMATION	
MIC 1	MIC 2
OFF +0	80 -6

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク情報表示>

MIC RF POWER	
MIC 1 : 10 mW	MIC 2 : 20 mW

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<送信出力設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの送信出力設定

MIC MIC GAIN / SENS	
MIC 1 + 0 dB	MIC 2 - 6 dB

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク音量表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの音量／入力感度

MIC LOW CUT	
MIC 1 OFF : OFF	MIC 2 80 : 80 Hz

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ローカットフィルター設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのローカットフィルター設定

MIC LOW BOOST	
MIC 1 : OFF	MIC 2 : OFF

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ローブースト設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのローブースト設定

MIC BATT TYPE	
MIC 1 ALKALINE	MIC 2 Ni-MH

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク電池タイプ表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの電池タイプ

MIC BATT VOLTAGE	
MIC 1 2.36 V	MIC 2 2.78 V

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク電池電圧表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの電池電圧

MIC HOUR METER	
MIC 1 00 : 36	MIC 2 02 : 19

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク使用時間表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの使用時間

※ワイヤレスマイクで管理している使用時間を表示します。詳しくはワイヤレスマイクの取扱説明書をご覧ください。

MIC PRIVATE	
MIC 1 : OFF	MIC 2 : ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<プライベート通信設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのプライベート通信設定

運用モード

MIC	REMOTE CONT
MIC 1	MIC 2
: ON	: ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

MIC	P-ON INFO
MIC 1	MIC 2
INFO : ON	INFO : OFF

UP、DOWNボタン [▲、▼]

MIC	STANDBY
MIC 1	MIC 2
: ON	: ON

UP、DOWNボタン [▲、▼]

MIC	MIC NAME
MIC 1	MIC 2
MIC - 1	MIC - 2

UP、DOWNボタン [▲、▼]

MIC	MEMORY NAME
MIC 1	MIC 2
MEMORY - 1	MEMORY - 2

UP、DOWNボタン [▲、▼]

<ワイヤレスマイク情報表示>に戻る

<リモートコントロール設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのリモートコントロール設定

<電源ON 時情報表示設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクの電源ON 時情報表示設定

<スタンバイモード設定表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのスタンバイモード設定

<ワイヤレスマイク名表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのマイク名

<ワイヤレスマイクメモリー名表示>

表示内容：各チューナーで受信しているワイヤレスマイクのメモリー名

簡易設定モード

簡易設定モードは本機でよく使う設定をするためのモードです。

運用モードの簡易画面表示中にチューナー1設定ボタン [SET] (またはチューナー2設定ボタン [SET]) を長押しして、簡易設定モードにします。

設定項目は、下表のとおりです。

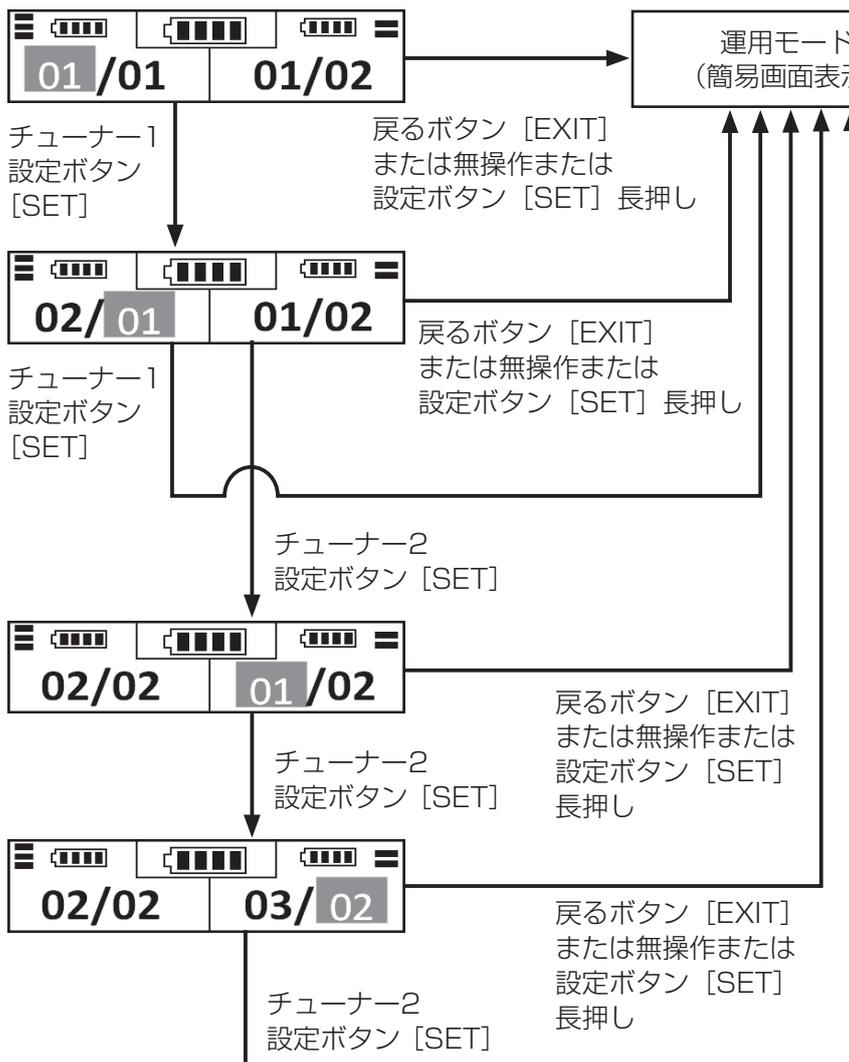
各項目は、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して選択します。

■ 簡易設定モード：項目一覧

液晶表示	項目	設定対象	設定値	
GROUP/CH	グループ/ チャンネル設定	各チューナーごと	グループ	G01~G20 (ワイド [WIDE] 設定時)
			グループ	G51~G64 (ナロー [NARROW] 設定時)
			チャンネル	C01~C37 (グループ: G01~G16設定時)
				C01~C36 (グループ: G17~G20設定時)
				C01~C53 (グループ: G51~G58設定時)
C01~C52 (グループ: G59~G64設定時)				

■ 各チューナーごとにグループ・チャンネルを設定する

下記のように画面遷移しますので、各項目を設定します。



1. チューナー1のグループ設定
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループを設定します。

2. チューナー1のチャンネル設定
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

3. チューナー2のグループ設定
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループを設定します。

4. チューナー2のチャンネル設定
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

注) 設定ボタン [SET] が押されたときに設定されます。戻るボタン [EXIT] が押されたときや無操作や設定ボタン [SET] 長押しで抜ける場合は設定しないで、簡易画面に戻ります。

必要なとき

設定モード

設定モードは、本機の設定をするためのモードです。

設定モードにするには、以下の3通りの方法があります。

- 運用モード中にどちらかのチューナー設定ボタン [SET] を長押しする。
- 簡易画面表示中に、UPボタン [▲] またはDOWNボタン [▼] を1回押した後に設定ボタン [SET] を長押しする。
- メニューモードのメニューから設定モードを選択する。

設定項目は、下表のとおりです。

各項目は、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して選択します。

■ 設定モード：項目一覧

液晶表示	項目	設定対象	設定値		参照ページ
BAND・FREQUENCY	バンド・周波数設定	各チューナーごと	バンド	ワイド [WIDE] / ナロー [NARROW]	42
			周波数	1240.150 MHz～1259.850 MHz (25 kHzステップ) 但し、1251.850 MHz～1253.150 MHzを除く	42
			グループ	G01～G20 (ワイド [WIDE] 設定時)	42
				G51～G64 (ナロー [NARROW] 設定時)	
			チャンネル	C01～C37 (グループ：G01～G16設定時)	42
C01～C36 (グループ：G17～G20設定時)					
C01～C53 (グループ：G51～G58設定時)					
チャンネル呼称	L006～L240/M001～M233/H007～H274	42			
FREQUENCY	周波数設定	各チューナーごと	周波数	1240.150 MHz～1259.850 MHz (25 kHzステップ) 但し、1251.850 MHz～1253.150 MHzを除く	43
GROUP/CH	グループ/ チャンネル設定	各チューナーごと	グループ	G01～G20 (ワイド [WIDE] 設定時)	43
				G51～G64 (ナロー [NARROW] 設定時)	
			チャンネル	C01～C37 (グループ：G01～G16設定時)	43
				C01～C36 (グループ：G17～G20設定時)	
C01～C53 (グループ：G51～G58設定時)	43				
C01～C52 (グループ：G59～G64設定時)					
RF ATT	アンテナアッテネーター設定	本機全体	OFF/ON		44
INT BATT TYPE	電池タイプ設定	本機全体	アルカリ [ALKALINE] / ニッケル水素充電池 [Hi-MH]		44
INT METER RESET	内部電池使用時間ゼロリセット	本機全体	[NO hh : mm] / [YES hh : mm]		45
EXT METER RESET	外部電源使用時間ゼロリセット	本機全体	[NO hh : mm] / [YES hh : mm]		45
KEY CODE	キーコード設定	各チューナーごと	8桁以内 (英数字 + 記号)		46
KEY CODE SQ	キーコードスケルチ設定	各チューナーごと	ON/OFF		47
INTERMITTENT	間欠受信モード設定	本機全体	ON/OFF		47
AES/EBU ON/OFF	AES/EBU出力 ON/OFF設定	本機全体	ON/OFF		48
AES/EBU OUT	AES/EBU出力設定	本機全体	1→TU1 / 2→TU2 / 1&2→TU1&TU2		48
WORD SYNC	AES/EBUクロック同期設定	本機全体	ON/OFF		49
REF TERM ON/OFF	AES/EBUクロック同期信号終端設定	本機全体	ON/OFF		49
RETURN TIMER	無操作タイムアウト時間設定	本機全体	3 S / 6 S / 12 S / 30 S		50

■ チューナー1とチューナー2の設定のしかたについて

本機では、チューナー1とチューナー2を、同じボタンで設定していくため、両方のチューナーを同時に操作することはできません。

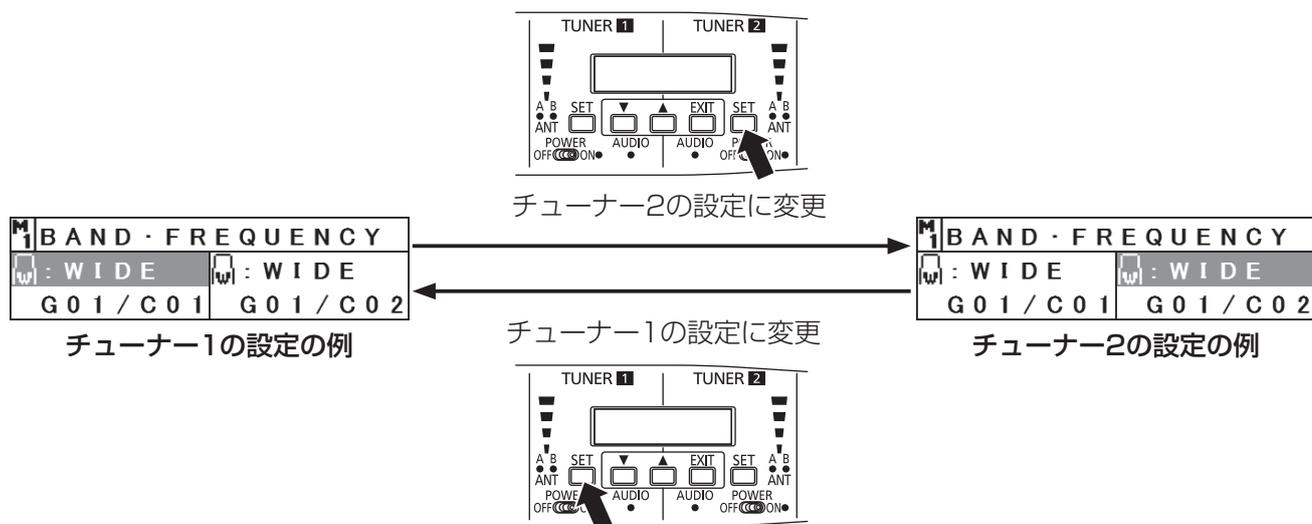
チューナー1を設定しているときは、チューナー1側（液晶表示の左側）が反転点滅します。

同じようにチューナー2を設定しているときは、チューナー2側（液晶表示の右側）が反転点滅します。

チューナー1の設定中にチューナー2の設定を変更したいときは、チューナー2設定ボタン [SET] を押します。

同じように、チューナー2の設定中にチューナー1の設定を変更したいときは、チューナー1設定ボタン [SET] を押します。

設定の途中で、チューナーの操作を入換えても、そこまで設定した内容は確定されます。



必要なとき

■ チューナーの電源がOFFのときの表示

チューナー1、チューナー2ともに電源がOFFのとき、液晶表示には何も表示されませんが、片側のチューナーだけが電源OFFのときは、電源OFF側のチューナーに対して下図のように2段目に「TU1 : OFF」、 「TU2 : OFF」と表示され、電源が切れているチューナーの設定は選択できません。

M1 BAND · FREQUENCY	
TU1 : OFF	WIDE
G 01 / C 02	

チューナー1の電源がOFFの例

M1 BAND · FREQUENCY	
WIDE	TU2 : OFF
G 01 / C 01	

チューナー2の電源がOFFの例

設定モード

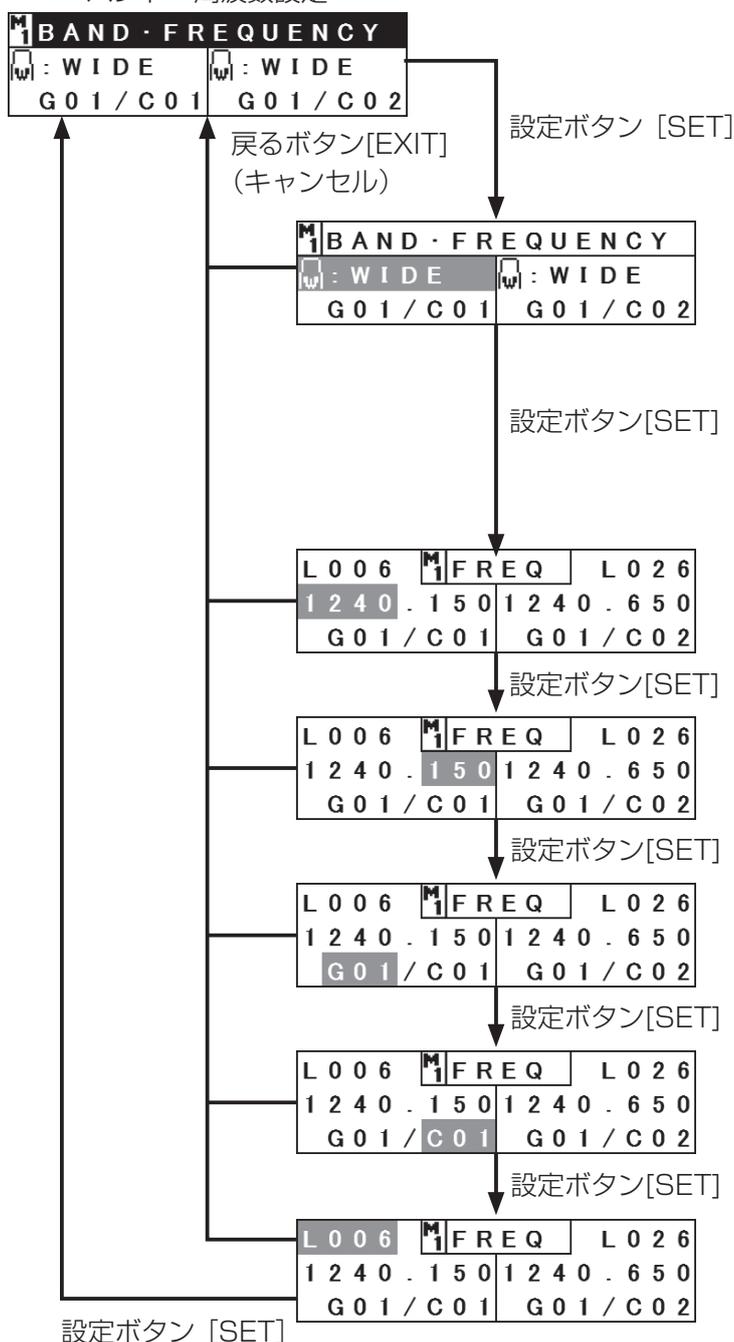
■ バンド・周波数を設定する

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「BAND・FREQUENCY」を選択します。ここではチューナー1の設定を例に説明します。下記の「設定ボタン [SET]」は、設定したい方のチューナーの設定ボタンです。下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。片側のチューナーで設定中に、もう片側のチューナーを設定するときには、そちらのチューナーの設定ボタン [SET] を押してください。それまで設定していた内容は確定されます。



- 周波数を設定する前に、必ず「周波数表の見かた」(9ページ) をご確認くださいの上、チャンネルプランを検討してください。複数のワイヤレスマイクを使ってシステムを組むときに、ノイズ等の原因になります。

バンド・周波数設定



必要なとき

1. バンド設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、バンドを設定します。

WIDE : ワイドバンド (帯域幅 : 288 kHz で受信する低遅延用の設定です)

NARROW : ナローバンド (帯域幅 : 192 kHz で受信する多チャンネル用および耐ノイズ性の設定です)

2. 周波数 (小数点以上)

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、周波数の小数点以上の桁を設定します。

3. 周波数 (小数点以下)

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、周波数の小数点以下の桁を設定します。

4. グループ設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループを設定します。

5. チャンネル設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

6. チャンネル呼称設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、チャンネル呼称を設定します。

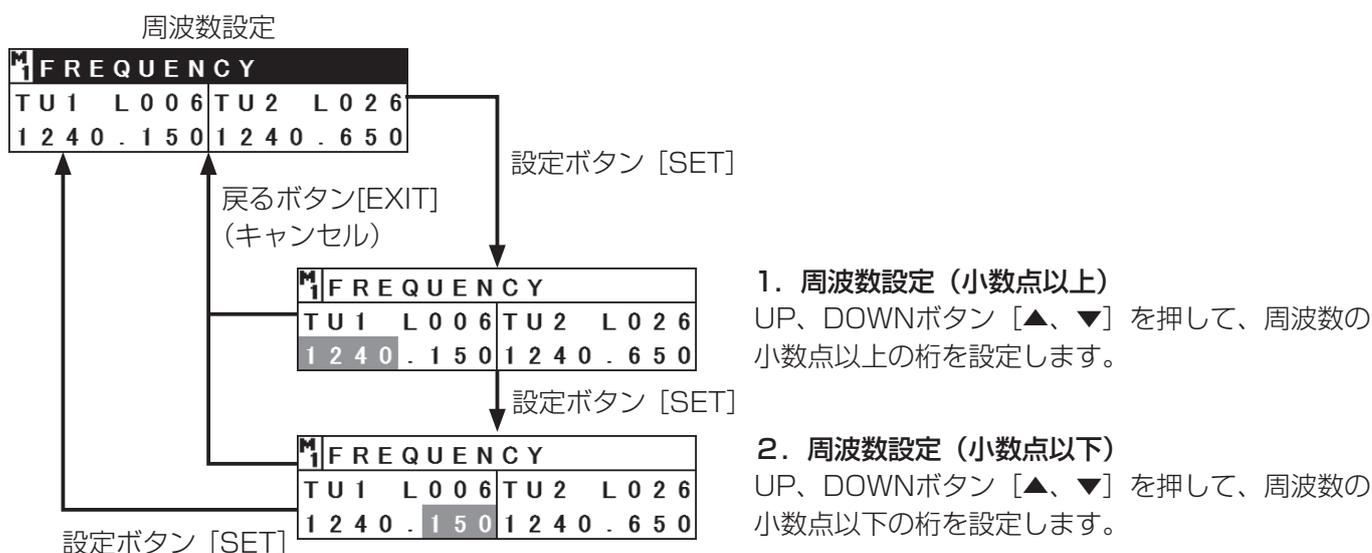


- バンド、周波数、グループ、チャンネル、チャンネル呼称の設定は、いずれかの設定を変更すると、その他の設定も対応した値に自動的に変更されます。

■ 周波数を設定する

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「FREQUENCY」を選択します。
 ここではチューナー1の設定を例に説明します。下記の「設定ボタン[SET]」は、設定したい方のチューナーの設定ボタンです。下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。
 片側のチューナーで設定中に、もう片側のチューナーを設定するときは、そちらのチューナーの設定ボタン [SET] を押してください。それまで設定していた内容は確定されます。

重要 ● 周波数を設定する前に、必ず「周波数表の見かた」(9ページ) をご確認の上、チャンネルプランを検討してください。複数のワイヤレスマイクを使ってシステムを組むときに、ノイズ等の原因になります。

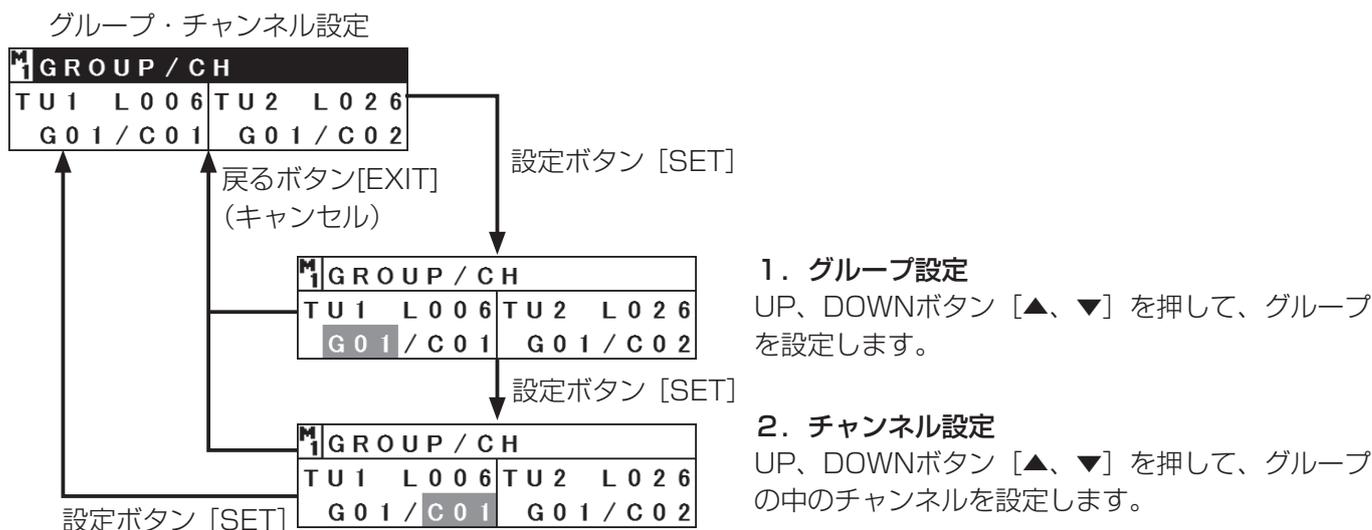


必要なとき

■ グループ・チャンネルを設定する

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「GROUP/CH」を選択します。
 ここではチューナー1の設定を例に説明します。下記の「設定ボタン[SET]」は、設定したい方のチューナーの設定ボタンです。下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。
 片側のチューナーで設定中に、もう片側のチューナーを設定するときは、そちらのチューナーの設定ボタン [SET] を押してください。それまで設定していた内容は確定されます。

重要 ● グループ・チャンネルを設定する前に、必ず「周波数表の見かた」(9ページ) をご確認の上、チャンネルプランを検討してください。複数のワイヤレスマイクを使ってシステムを組むときに、ノイズ等の原因になります。

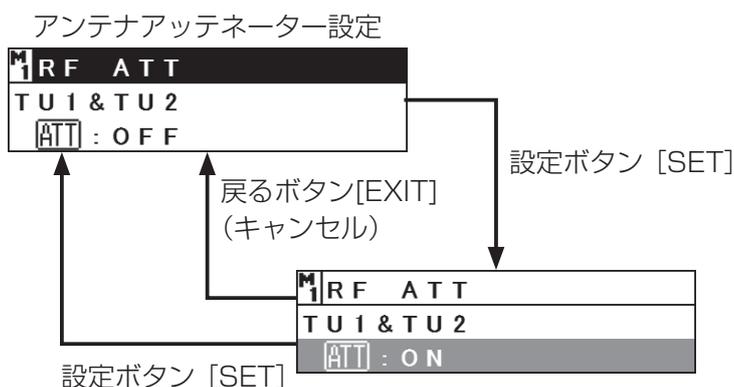


設定モード

■ アンテナアッテネーターを設定する

本機では、アンテナ接続端子からのアンテナ入力に対して、10 dBのアッテネーターを設定することができます。設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「RF ATT」を選択します。

アンテナアッテネーターは、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。



1. アンテナアッテネーター設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

OFF : アッテネートしない (0 dB設定)

ON : アッテネートする (10 dB設定)

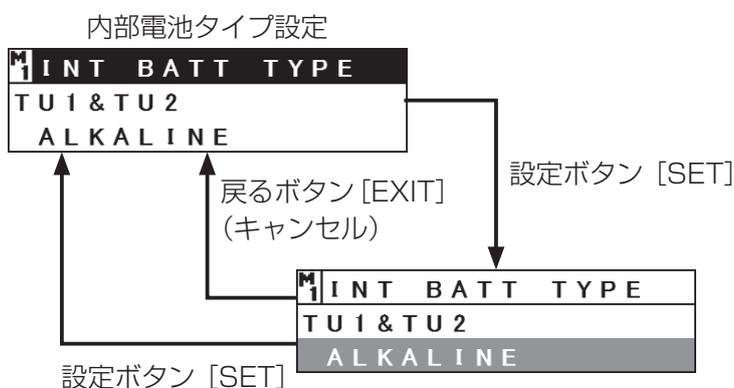
必要なとき

■ 本機の内部電池タイプを設定する

電池残量を正しく表示するために、電池のタイプを設定します。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「INT BATT TYPE」を選択します。

内部電池タイプは、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、ALKALINE、Ni-MHから選択して設定します。



1. 内部電池タイプ設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、ALKALINE、Ni-MHから選択して設定します。

ALKALINE : アルカリ乾電池

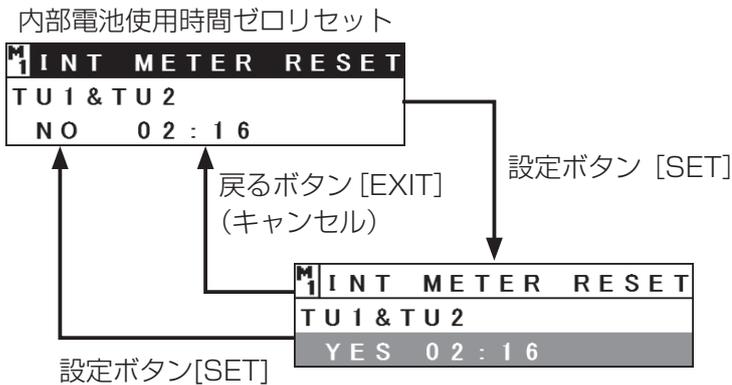
Ni-MH : ニッケル水素充電電池

■ 内部電池での使用時間をゼロリセットする

本機の内部電池での使用時間表示の時間を、ゼロリセットします。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「INT METER RESET」を選択します。

使用時間ゼロリセットは、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、NO、YESから選択して設定します。



1. 内部電池使用時間ゼロリセット

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、NO、YESから選択して設定します。

NO : 使用時間をゼロリセットしない

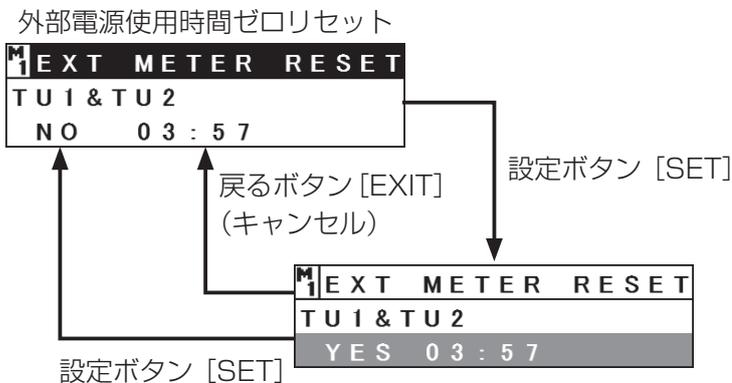
YES : 使用時間をゼロリセットする

■ 外部電源での使用時間をゼロリセットする

外部電源での使用時間表示の時間を、ゼロリセットします。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「EXT METER RESET」を選択します。

使用時間ゼロリセットは、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、NO、YESから選択して設定します。



1. 外部電源使用時間ゼロリセット

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、NO、YESから選択して設定します。

NO : 使用時間をゼロリセットしない

YES : 使用時間をゼロリセットする

設定モード

■ キーコードを設定する

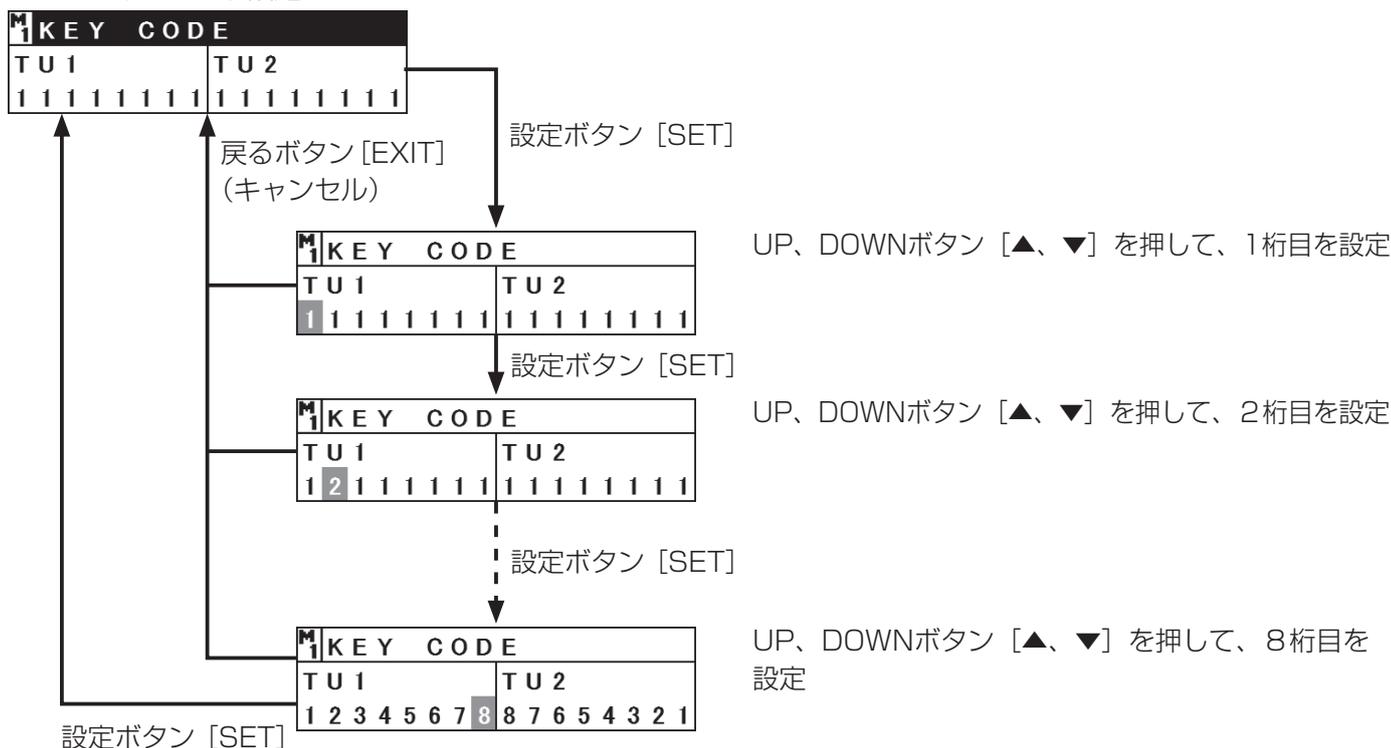
ワイヤレスマイクのプライベート通信設定や、本機のキーコードスケルチ機能を使用するために、キーコードを設定しておきます。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「KEY CODE」を選択します。

ここではチューナー1 の設定を例に説明します。下記の「設定ボタン [SET]」は、設定したい方のチューナーの設定ボタンです。下記のように画面遷移しますので、8桁すべてに文字を設定します。

片側のチューナーで設定中に、もう片側のチューナーを設定するときは、そちらのチューナーの設定ボタン [SET] を押してください。それまで設定していた内容は確定されます。

キーコード設定



必要なとき

キーコードに設定できる文字は、以下のとおりです。

数字 : 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9

アルファベット : A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z

記号 : !、#、&、\$、@、+、-、=、_、(空白スペース)、(、)、[、]、. (ピリオド)、*

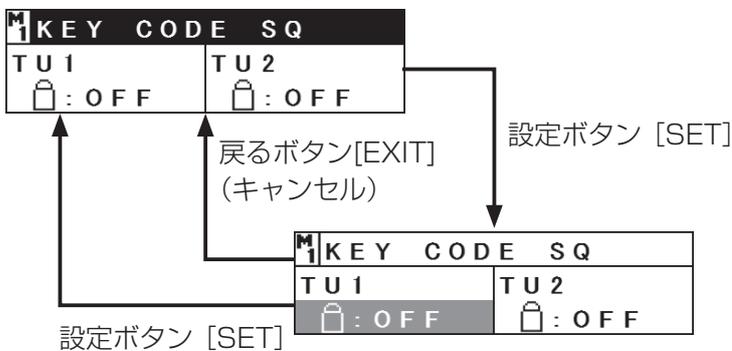
■ キーコードスケルチを設定する

キーコードスケルチは、本機とワイヤレスマイクのキーコードを使って、音声の出力有無を決める機能です。キーコードとキーコードスケルチ設定については、下表のように音声の出力有無が決まります。

キーコードスケルチ設定	本機とワイヤレスマイクのキーコード	
	キーコードが同じ	キーコードが異なる
ON	音声出力される	音声出力されない
OFF	音声出力される	音声出力される

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「KEY CODE SQ」を選択します。ここではチューナー1の設定を例に説明します。下記の「設定ボタン [SET]」は、設定したい方のチューナーの設定ボタンです。下記のように画面遷移しますので、OFF、ON から選択して設定します。片側のチューナーで設定中に、もう片側のチューナーを設定するときは、そちらのチューナーの設定ボタン [SET] を押してください。それまで設定していた内容は確定されます。

キーコードスケルチ設定



1. キーコードスケルチ設定

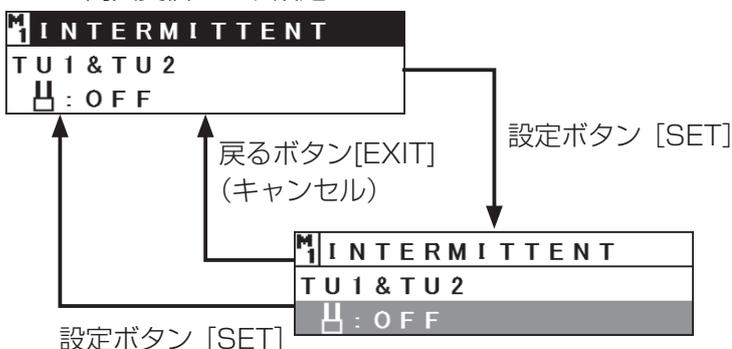
UP、DOWN ボタン [▲、▼] を押して、OFF、ON から選択して設定します。

必要なとき

■ 間欠受信モードを設定する

間欠受信モードを設定します。間欠受信モードの詳しい説明は、52ページをご覧ください。設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「INTERMITTENT」を選択します。間欠受信モード設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。

間欠受信モード設定



1. 間欠受信モード設定

UP、DOWN ボタン [▲、▼] を押して、OFF、ON から選択して設定します。

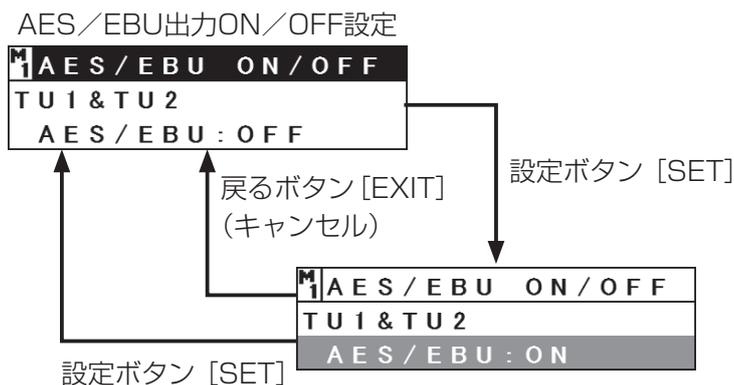
設定モード

■ AES/EBU出力のON/OFFを設定する

本機側面のAES/EBU用コネクタ（10～11ページ）からAES/EBU信号を出力するかしないかを設定します。AES/EBU信号を使用しない場合は、電池の消費を抑えるためにOFFに設定してください。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「AES/EBU ON/OFF」を選択します。

AES/EBU出力のON/OFF設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。



1. AES/EBU出力ON/OFF設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

必要なとき

OFF : AES/EBU用コネクタから出力しない

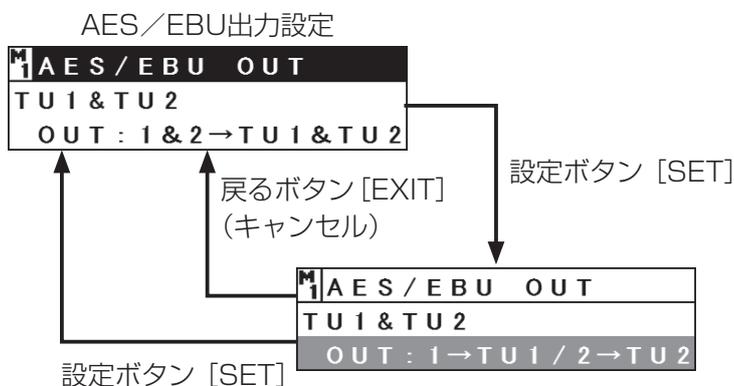
ON : AES/EBU用コネクタから出力する

■ AES/EBU出力を設定する

本機側面のAES/EBU用コネクタ（10～11ページ）のAES/EBU信号の出力とチューナー1、2の関係を設定します。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「AES/EBU OUT」を選択します。

AES/EBU出力設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、1&2→TU1&TU2、1→TU1/2→TU2から選択して設定します。



1. AES/EBU出力設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、下記から選択して設定します。

1&2→TU1&TU2 : AES/EBU出力1、2のLチャンネルにチューナー1、Rチャンネルにチューナー2の音声を出します。このとき、AES/EBU出力1と2から出力されるAES/EBU信号のクロックおよびデータは同期しています。

1→TU1/2→TU2 : AES/EBU出力1のLRチャンネルにチューナー1の音声を出し、同様にAES/EBU出力2にチューナー2の音声を出します。このとき、AES/EBU出力1と2から出力されるAES/EBU信号のクロックは独立しており同期していません。

■ AES/EBUクロック同期を設定する

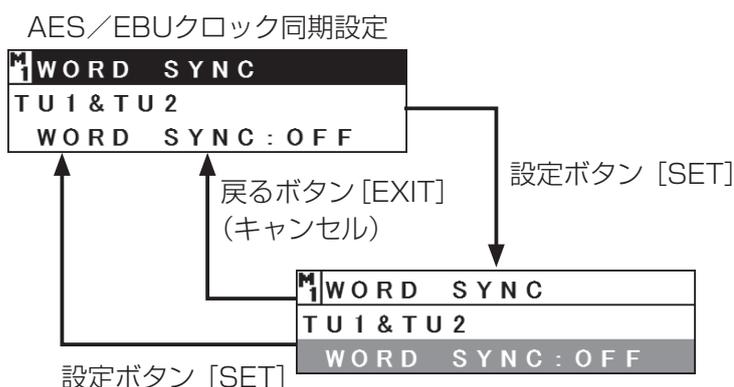
本機側面のAES/EBU用コネクタ（10～11ページ）のワードクロック同期信号入力に同期信号を入力するかどうかを設定します。

本設定は、AES/EBU出力の設定（48ページ）で、「1&2→TU1&TU2」を選択した場合のみ有効となります。

「1→TU1/2→TU2」を選択した場合でも、ON/OFFを選択できますが常に無効となります。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「WORD SYNC」を選択します。

AES/EBUクロック同期設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。



1. AES/EBUクロック同期設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

OFF：外部ワードクロック同期信号無効

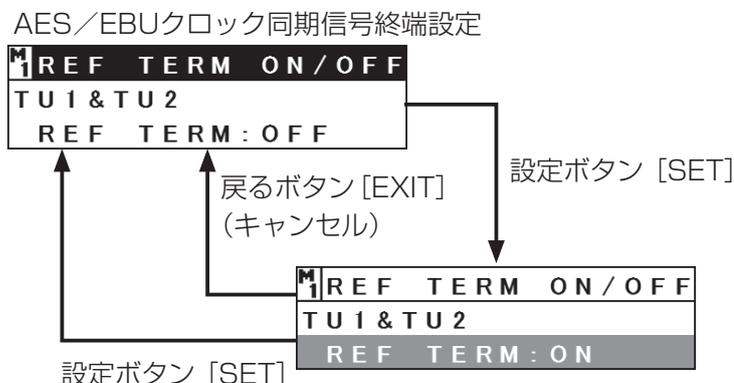
ON：外部ワードクロック同期信号有効

■ AES/EBUクロック同期信号終端抵抗を設定する

本機側面のAES/EBU用コネクタ（10～11ページ）のワードクロック同期信号入力に終端抵抗を設定します。（21ページ）

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「REF TERM ON/OFF」を選択します。

AES/EBUクロック同期信号終端設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。



1. AES/EBUクロック同期信号終端設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

OFF：ワードクロック同期信号終端抵抗無効

ON：ワードクロック同期信号終端抵抗有効

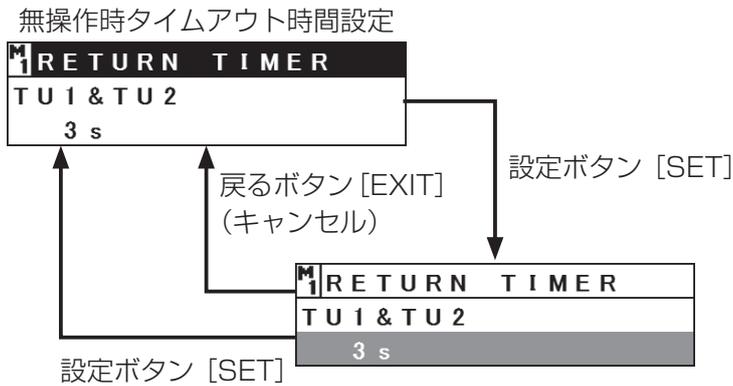
設定モード

■ 無操作時タイムアウト時間を設定する

無操作状態が続いたときに、運用モードに自動的に戻る時間を設定します。

設定モードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して「RETURN TIMER」を選択します。

無操作時タイムアウト時間設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、3秒、6秒、12秒、30秒から選択して設定します。



1. 無操作時タイムアウト時間設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、3秒、6秒、12秒、30秒から選択して設定します。

間欠受信モード

間欠受信モードは、ワイヤレスマイクの電波を3分以上受信していないときに、電池消費を抑えるため受信を中止し、省電力で動作しているときのモードです。

間欠受信モードになると、約10秒ごとにワイヤレスマイクの受信を監視し、受信したときに運用モードに戻ります。間欠受信モードを使用する場合は、設定モードで間欠受信モードを有効に設定しておきます。(47ページ)



重要

- 間欠受信モードでは、ワイヤレスマイクの受信を最大約10秒間受信することができません。お客様の運用形態に合わせて、設定してください。
- 電源をOFFにすると、間欠受信モードから電源OFF状態に変わり、ワイヤレスマイクが送信しても運用モードに戻りません。
- 間欠受信モード中に、表示・操作部のボタンを操作すると、運用モードに戻ります。

■ 間欠受信モード中の液晶表示

間欠受信モードになっているとき、液晶表示は反転表示になり、運用モードの3段目に「INTERMITTENT」を表示します。簡易画面表示のときは1段目に表示します。



周波数スキャンモード

周波数スキャンモードは、使用予定バンド、グループで、他のワイヤレスマイクや妨害波を送信している機器が周辺に無いか確認するためのモードです。

周波数スキャンモードには、「リアルタイムスキャン」と「マックスホールドスキャン」の2種類あります。

周波数スキャンモードにするには、チューナー1設定ボタン [SET] またはチューナー2設定ボタン [SET] を押しながら、電源スイッチをONするか、メニューモードからメニューを選択して行います。

なお、どちらか片方の電源スイッチだけでもONになっていれば、両方のチューナーが周波数スキャンモードになります。



- 妨害波がスキャン表示レベル以下の場合には表示されません。表示されない場合でも、受信に影響を与える場合がありますので、ご使用前にマイクと受信機の到達距離をご確認ください。到達距離が短い場合は周波数を変更し確認してください。

■ リアルタイムスキャンとマックスホールドスキャン

リアルタイムスキャンは、本機が各周波数をスキャンしているときの状態を、リアルタイムで表示します。

マックスホールドスキャンは、本機がスキャンを開始してから、スキャンしたときの最大値を保持し表示します。

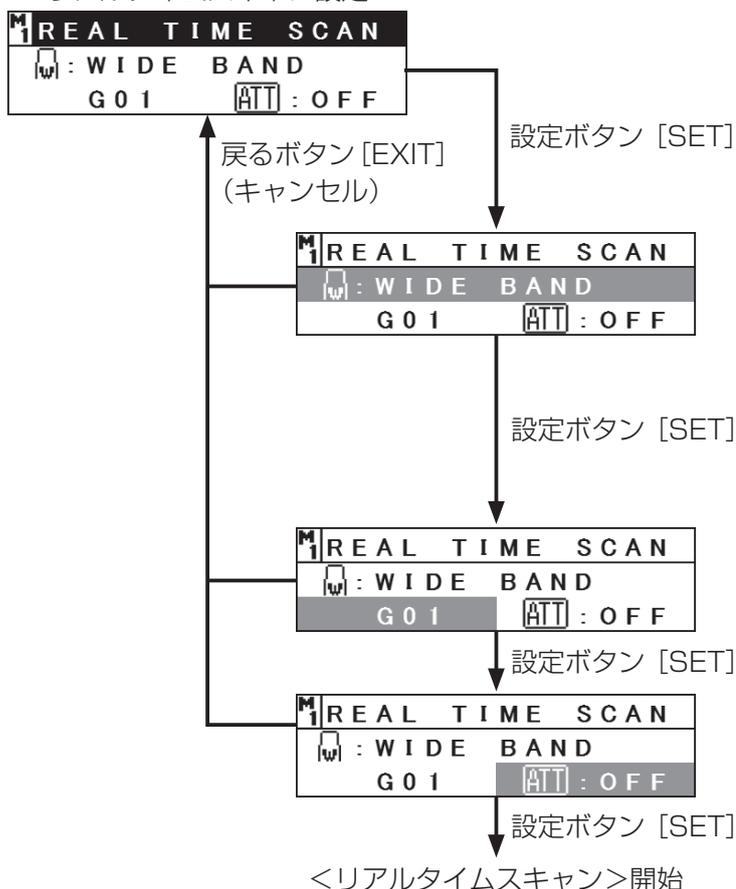
■ リアルタイムスキャンの設定とスキャンの開始

リアルタイムスキャンを開始するために、スキャンするための条件を設定します。

周波数スキャンモードでUPボタン [▲] またはDOWNボタン [▼] を押して「REAL TIME SCAN」を選択します。この条件設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、バンド、グループ、アンテナアッテネーター設定の項目を設定します。

なお、ここで設定した内容は、周波数スキャンモードのための一時的な設定であり、周波数スキャンモードから抜けたときには周波数スキャンモードに入る前の設定に戻ります。

リアルタイムスキャン設定



1. バンド設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、スキャンしたいバンドを設定します。

WIDE : ワイドバンド (帯域幅: 288 kHzで受信する低遅延用の設定です)

NARROW : ナローバンド (帯域幅: 192 kHzで受信する多チャンネル用および耐ノイズ性の設定です)

2. グループ設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、スキャンしたいグループを設定します。

3. アンテナアッテネーター設定

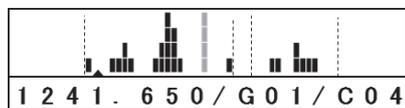
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

周波数スキャンモード

■ リアルタイムスキャンの液晶表示の見かた

ここでは、リアルタイムスキャン中、または一時停止中の本機の液晶表示の見かた、操作のしかたを説明します。

スキャン中、「▲」が順次右方向へ移動



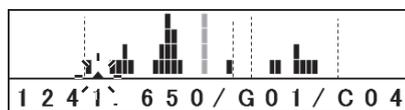
チューナー1設定
ボタン [SET] または
戻るボタン [EXIT]

周波数・グループ・チャンネル表示

スキャン中、左図のような表示になります。

上段には、スキャンしたレベルのグラフを表示し、「▲」が順次右方向へ移動しながら現在スキャンしているチャンネルを示します。マックスホールドスキャンと異なり、スキャンしたときのレベルを表示します。なお、パルス性の妨害波を検出した場合は最大レベルの点滅で表示されます。下段にスキャンしている周波数、グループ、チャンネルを表示します。

スキャン一時停止中、「▲」が停止し点滅



戻るボタン
[EXIT]

チューナー1設定
ボタン [SET]

スキャン一時停止

スキャン中は、チューナー1設定ボタン [SET] または戻るボタン [EXIT] で、スキャンが一時停止となり、「▲」が停止し点滅します。

一時停止中に、チューナー1設定ボタン [SET] を押すと、メニューを表示します。



チューナー1設定
ボタン [SET]

メニュー表示

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して項目を選択し、チューナー1設定ボタン [SET] で決定します。

RE START : スキャンを再開します。

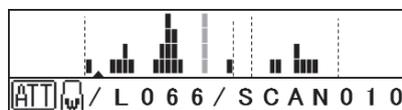
CLEAR SCAN : スキャン結果のグラフをクリアし、スキャンを再開します。

EXIT YES : リアルタイムスキャンを終了し、リアルタイムスキャン設定に戻ります。

選択した状態に遷移

アンテナアッテネーター設定・バンド・チャンネル呼称・スキャン回数表示

スキャン中、または一時停止中に、チューナー2設定ボタン [SET] を押すと、下段が<周波数・グループ・チャンネル表示>と<アンテナアッテネーター設定・バンド・チャンネル呼称・スキャン回数表示>が切り替わります。スキャン回数は、「SCAN○○」と3桁で表示されます。(999回以上はカウントアップしません)



■ リアルタイムスキャン一時停止中の周波数の変更

リアルタイムスキャン一時停止中にUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、チャンネルを変更することができます。チャンネルを変更するとグラフの「▲」も一緒に動き、グラフ上のどこを指しているのかが分かります。

また、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を長押しすると、0.5秒間隔で自動的にチャンネルがカウントアップ（またはカウントダウン）します。なお3秒以上長押しすると、0.2秒間隔になります。

一時停止中のチャンネルでワイヤレスマイクの電波を受信すると、チューナー1側より音声が出力されます。ただし、以下の場合は音声が出力されません。

- バンド (WIDE/NARROW) 設定やグループ、チャンネル設定が本機と異なる場合
- ワイヤレスマイクがプライベート通信機能を設定して本機とキーコードが異なる場合
- アナログ式や他社のデジタル式ワイヤレスマイク、妨害波等の場合



- 運用モードでキーコードスケルチを設定していても、スキャンモードでは一旦解除されます。
- スキャン中にバックライトが消灯した場合、2チャンネル側のSETスイッチを押すと、スキャンを停止せずに再びバックライトが点灯します。

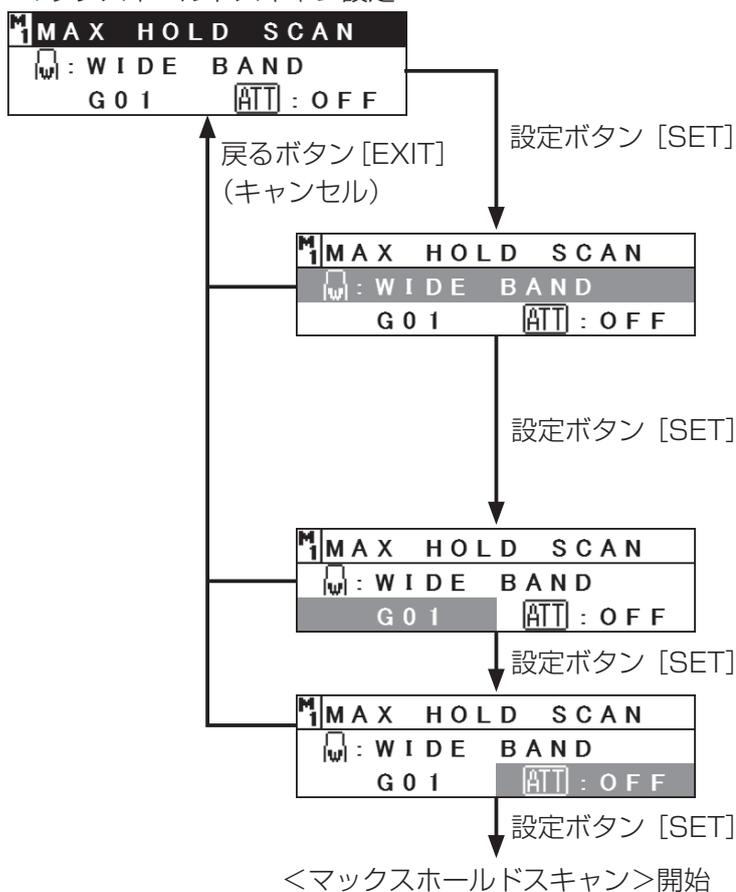
■ マックスホールドスキャンの設定とスキャンの開始

マックスホールドスキャンを開始するために、スキャンするための条件を設定します。

周波数スキャンモードでUPボタン [▲] またはDOWNボタン [▼] を押して「MAX HOLD SCAN」を選択します。この条件設定は、本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。下記のように画面遷移しますので、バンド、グループ、アンテナアッテネーター設定の項目を設定します。

なお、ここで設定した内容は、周波数スキャンモードのための一時的な設定であり、周波数スキャンモードから抜けたときには周波数スキャンモードに入る前の設定に戻ります。

マックスホールドスキャン設定



1. バンド設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、スキャンしたいバンドを設定します。

WIDE :ワイドバンド (帯域幅 : 288 kHzで受信する低遅延用の設定です)

NARROW :ナローバンド (帯域幅 : 192 kHzで受信する多チャンネル用および耐ノイズ性の設定です)

2. グループ設定

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、スキャンしたいグループを設定します。

3. アンテナアッテネーター設定

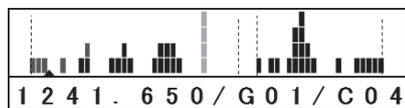
UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、OFF、ONから選択して設定します。

周波数スキャンモード

■ マックスホールドスキャンの液晶表示の見かた

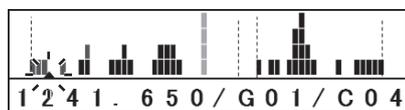
ここでは、マックスホールドスキャン中、または一時停止中の本機の液晶表示の見かた、操作のしかたを説明します。

スキャン中、「▲」が順次右方向へ移動



チューナー1設定
ボタン[SET]または
戻るボタン [EXIT]

スキャン一時停止中、「▲」が停止し点滅



戻るボタン
[EXIT]

チューナー1設定
ボタン [SET]



チューナー1設定
ボタン [SET]

選択した状態に遷移

周波数・グループ・チャンネル表示

スキャン中、左図のような表示になります。

上段には、スキャンしたレベルのグラフを表示し、「▲」が順次右方向へ移動しながら現在スキャンしているチャンネルを示します。

リアルタイムスキャンと異なり、スキャン開始からの最大受信レベルを保持して表示をつづけます。

なお、パルス性の妨害波を検出した場合は最大レベルの点滅で表示されます。下段にスキャンしている周波数、グループ、チャンネルを表示します。

スキャン一時停止

スキャン中は、チューナー1設定ボタン [SET] または戻るボタン [EXIT] で、スキャンが一時停止となり、「▲」が停止し点滅します。

一時停止中に、チューナー1設定ボタン [SET] を押すと、メニューを表示します。

メニュー表示

UP、DOWNボタン[▲、▼]を押して項目を選択し、チューナー1設定ボタン [SET] で決定します。

RE START : スキャンを再開します。

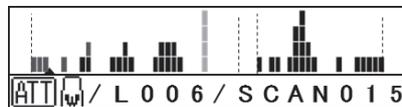
CLEAR SCAN : スキャン結果のグラフをクリアし、スキャンを再開します。

EXIT YES : マックスホールドスキャンを終了し、マックスホールドスキャン設定に戻ります。

アンテナアッテネーター設定・バンド・チャンネル呼称・スキャン回数表示

スキャン中、または一時停止中に、チューナー2設定ボタン [SET] を押すと、以下のとおり下段が<周波数・グループ・チャンネル表示>と<アンテナアッテネーター設定・バンド・チャンネル呼称・スキャン回数表示>が切り替わります。

スキャン回数は、「SCAN○○」と3桁で表示されます。(999回以上はカウントアップしません)



■ マックスホールドスキャン一時停止中の周波数の変更

マックスホールドスキャン一時停止中にUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すと、チャンネルを変更することができます。チャンネルを変更するとグラフの「▲」も一緒に動き、グラフに表示されている別のシステムや妨害波が、どのチャンネルに該当するかがわかります。また、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を長押しすると、0.5秒間隔で自動的にチャンネルがカウントアップ（またはカウントダウン）します。なお3秒以上長押しすると、0.2秒間隔になります。一時停止中のチャンネルでワイヤレスマイクの電波を受信すると、チューナー1側より音声が出力されます。

ただし、以下の場合は音声が出力されません。

- バンド (WIDE/NARROW) 設定やグループ、チャンネル設定が本機と異なる場合
- ワイヤレスマイクがプライベート通信機能を設定して本機とキーコードが異なる場合
- アナログ式や他社のデジタル式ワイヤレスマイク、妨害波等の場合



- 運用モードでキーコードスケルチを設定していても、スキャンモードでは一旦解除されます。
- スキャン中にバックライトが消灯した場合、2チャンネル側のSETスイッチを押すと、スキャンを停止せずに再びバックライトが点灯します。

メモリーモード

メモリーモードは、本機の設定を3パターンまで記憶することができ、その中から呼び出して設定を一括で変更できるモードです。また、クイック設定モードで呼び出すための設定項目を6項目まで保存します。メニューモードからメニューを選択してメモリーモードにします。(63ページ)



- メモリーモードでは、チューナー1とチューナー2をセットで読み込み、書き込みします。

設定項目は、下表のとおりです。

各項目は、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押して選択します。

■ メモリーモード：項目一覧

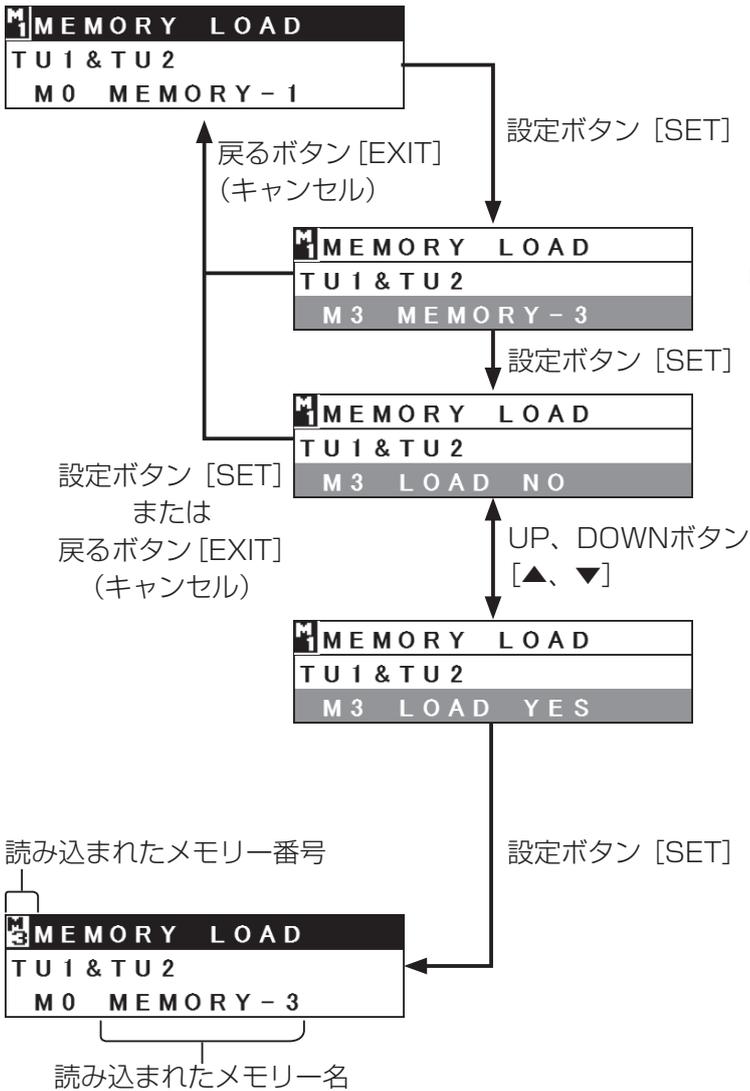
液晶表示	項目	設定値	参照ページ	
MEMORY LOAD	メモリー読み込み	あらかじめ本機に保存された設定パターン（メモリー1～3）を呼び出して本機に設定します。	58	
MEMORY SAVE	メモリー書き込み	本機に設定されている内容を設定パターンとしてメモリー1～3へ書き込み保存します。	59	
MEMORY NAME	メモリー名設定	メモリー番号ごとに名前をつけることができます。	60	
QUICK 1 SET	クイック設定1の割り当て	クイック設定モードの設定1で使用する項目を設定します。	61	
QUICK 2 SET	クイック設定2の割り当て	クイック設定モードの設定2で使用する項目を設定します。		
QUICK 3 SET	クイック設定3の割り当て	クイック設定モードの設定3で使用する項目を設定します。		
QUICK 4 SET	クイック設定4の割り当て	クイック設定モードの設定4で使用する項目を設定します。		
QUICK 5 SET	クイック設定5の割り当て	クイック設定モードの設定5で使用する項目を設定します。		
QUICK 6 SET	クイック設定6の割り当て	クイック設定モードの設定6で使用する項目を設定します。		
MEMORY RESET	メモリー初期化	M1 (メモリー名)	メモリー番号1を初期化します	62
		M2 (メモリー名)	メモリー番号2を初期化します。	
		M3 (メモリー名)	メモリー番号3を初期化します。	
		M0-M3	本機の現在の設定とメモリー番号1～3を初期化します。	
		QUICK	クイック設定1～6の割り当てを初期化します。	
		ALL	本機の現在の設定とメモリー番号1～3およびクイック設定1～6の割り当てを初期化します。	
VERSION	ソフトウェアバージョン表示	本機のソフトウェアのバージョンを表示します。	62	

メモリーモード

■ 設定パターンの呼び出し（メモリー読み込み）について

あらかじめ本機に保存された設定パターン（メモリー1～3）を呼び出して本機に設定します。

メモリーモードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で「MEMORY LOAD」を選択します。なおメモリー読み込みは本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。



1. メモリー番号選択

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、読み込むメモリー番号を「M1」～「M3」から選択します。

2. 読み込まない場合は、NOを選択します。

2. 読み込みを実行する場合は、YESを選択します。

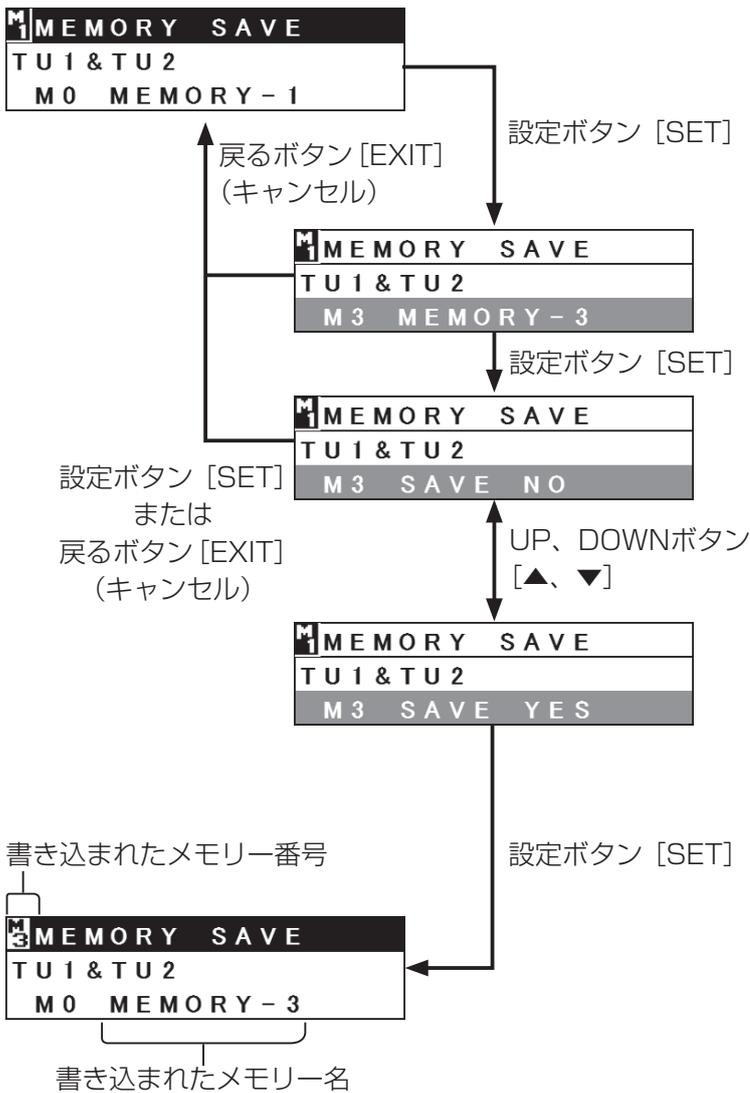
3. メモリーの読み込みが完了すると、読み込まれたメモリー番号とメモリー名が表示されます。

必要なとき

■ 設定パターンの保存（メモリー書き込み）について

本機に設定されている内容を設定パターンとしてメモリー1～3に書き込み保存します。

メモリーモードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で「MEMORY SAVE」を選択します。なおメモリー書き込みは本機全体の設定を書き込むので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。



1. メモリー番号選択

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、書き込むメモリー番号を「M1」～「M3」から選択します。

2. 書き込まない場合は、NOを選択します。

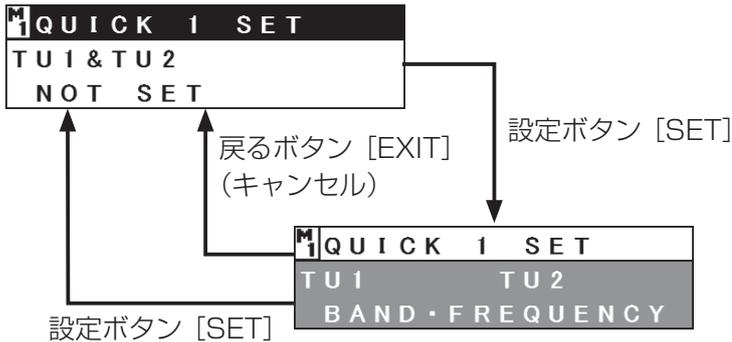
2. 書き込みを実行する場合は、YESを選択します。

3. メモリーへの書き込みが完了すると、書き込まれたメモリー番号とメモリー名が表示されます。

■ クイック設定の設定項目の割り当て

クイック設定モードで使用する項目を設定します。
クイック設定用の割り当ては、6項目までできます。

メモリーモードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で「QUICK 1 SET」～「QUICK 6 SET」を選択します。
なおクイック設定は本機全体に設定されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン [SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。
(ここでは、「QUICK 1 SET」を選択したときを例にしています)



1. クイック設定割り当て

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、クイック設定に割り当てたい設定項目を選択します。

クイック設定に割り当てることができる設定項目は、下表のとおりです（設定モードの項目と同じです）。

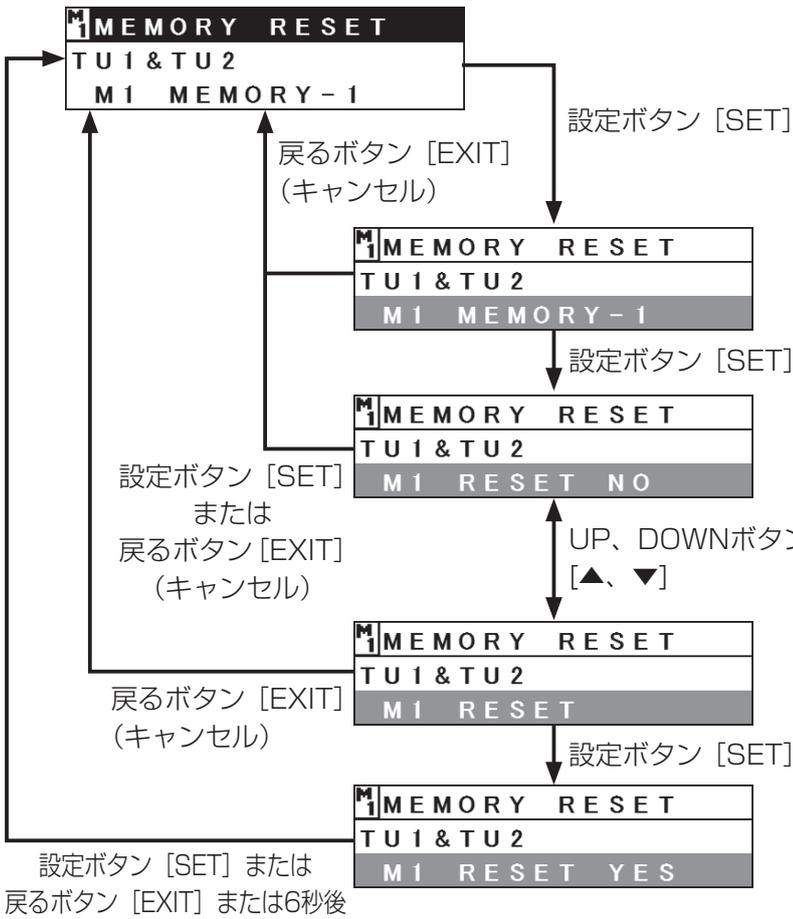
液晶表示	項目
BAND・FREQUENCY	バンド・周波数設定（42ページ）
FREQUENCY	周波数設定（43ページ）
GROUP/CH	グループ・チャンネル設定（43ページ）
RF ATT	アンテナアッテネーター設定（44ページ）
INT BATT TYPE	電池タイプ設定（44ページ）
INT METER RESET	内部電池使用時間ゼロリセット（45ページ）
EXT METER RESET	外部電源使用時間ゼロリセット（45ページ）
KEY CODE	キーコード設定（46ページ）
KEY CODE SQ	キーコードスケルチ設定（47ページ）
INTERMITTENT	間欠受信モード設定（47ページ）
AES/EBU ON/OFF	AES/EBU出力ON/OFF 設定（48ページ）
AES/EBU OUT	AES/EBU出力設定（48ページ）
WORD SYNC	AES/EBUクロック同期設定（49ページ）
REF TERM ON/OFF	AES/EBUクロック同期信号終端設定（49ページ）
RETURN TIMER	無操作時タイムアウト設定（50ページ）

メモリーモード

■メモリーの初期化

本機の設定やメモリー内容などを工場出荷時設定に戻します。(工場出荷時設定は、68ページをお読みください)

メモリーモードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で「MEMORY RESET」を選択します。なおメモリーは本機全体が初期化されますので、チューナーの選択は不要です。下記の「設定ボタン[SET]」は、どちらのチューナーの設定ボタンでも可能です。



1. 初期化項目選択

UP、DOWNボタン [▲、▼] を押して、初期化をしたい項目を下表から選択します。

2. 初期化しない場合は、NOを選択します。

2. 初期化を実行する場合は、YESを選択します。

3. 初期化が完了すると、「RESET」が表示されます。

必要なとき

UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で選択できる項目は、下表のとおりです。

液晶表示	項目
M1 (メモリー名)	メモリー番号1の初期化
M2 (メモリー名)	メモリー番号2の初期化
M3 (メモリー名)	メモリー番号3の初期化
M0~M3	本機の現在の設定とメモリー番号1~3の初期化
QUICK	クイック設定1~6の割り当ての初期化
ALL	本機の内部設定を含めたすべての初期化

■ソフトウェアバージョンの表示について

本機のソフトウェアのバージョンを表示します。

メモリーモードでUPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] で「VERSION」を選択すると、下記のように本機のソフトウェアバージョンを表示します。



メニューモード

メニューモードは、本機各モードを選択するためのモードです。

電源OFFの状態では、戻るボタン [EXIT] を押しながら電源をONすることでメニューモードに入ります。また、各モード表示中に戻るボタン [EXIT] を長押ししてもメニューモードに入ります。

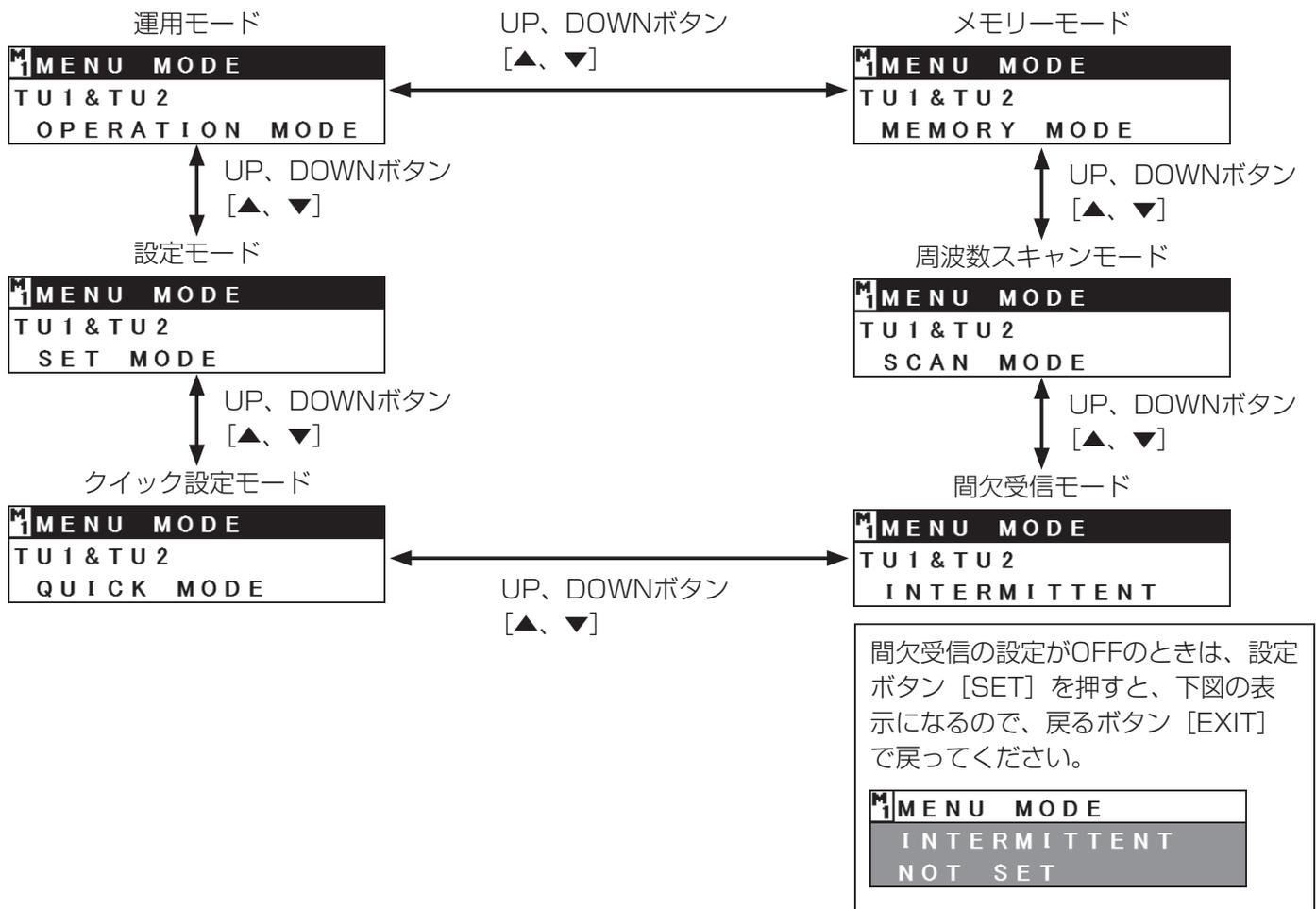
メニューモード中に、無操作が180秒継続するとメニューモードを終了します。

- 電源スイッチでメニューモードに遷移したとき、および周波数スキャンモード、メモリーモードからメニューモードに遷移したときは、電源スイッチOFF状態に遷移します。再度使用する場合は、電源スイッチをONにしてください。
- 運用モード、設定モード、クイック設定モードからメニューモードに遷移したときは、運用モードへ遷移します。

■ メニューモードの操作方法

メニューモードの項目メニューは、UPボタン [▲]、DOWNボタン [▼] を押すことで、下図のように遷移します。

遷移したいモードを選択して、チューナー1またはチューナー2設定ボタン [SET] を押します。



故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源が入らない (電池でご使用のとき)	▶ ● 電池は入っていますか? ➔ 電池を入れてください。	22~23
	▶ ● 電源スイッチはONになっていますか? ➔ 電源スイッチをONにしてください。	24
	▶ ● 電池ホルダーが外れていませんか? ➔ 電池ホルダーを再度入れ直してみてください。	22~23
	▶ ● 電池が消耗していませんか? ➔ 新しい電池と交換してください。	22~23
	▶ ● 電池の+と-の向きが間違っていないですか? ➔ 正しい向きに電池を入れてください。	23
電源が入らない (外部電源端子でご使用のとき)	▶ ● 外部電源端子に電源は接続されていますか? ➔ DC12 V電源を接続してください。	23
	▶ ● 外部電源端子に供給されている電圧は正しいですか? ➔ 電源電圧を確認してください。	23
	▶ ● 電源スイッチはONになっていますか? ➔ 電源スイッチをONにしてください。	24
	▶ ● 電源プラグは、正しいものを使用していますか? ➔ 正しいプラグを使用してください。	23
受信がまったくできない (音声が出力されない、受信レベル表示が反応しない)	▶ ● 外部電源の電流容量は2 A以上ありますか? ➔ 2 A以上の電流容量の電源で使用してください。	23
	▶ ● ワイヤレスマイクの電源(電池)は入っていますか? ➔ ワイヤレスマイクに電池を入れ送信状態にしてください。	ワイヤレスマイクの取扱説明書
	▶ ● ワイヤレスマイクが送信する周波数と受信機の受信する周波数の設定は合っていますか? ➔ バンド、グループ、チャンネルの設定をワイヤレスマイクと同じにしてください。多チャンネル使用の場合は、周波数表を参照してください。	39・42・43および周波数表

症 状	原 因 ・ 対 策	参 照 ペ ー ジ
<p>受信がまったくできない (音声が出力されない、 受信レベル表示は反応し ていない)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスマイクが電波を送信しないモードに設定されていませんか？ ➡ 音声を出力するためには電波を送信するモードに設定してください。 	<p>ワイヤレスマイク の取扱説明書</p>
<p>受信がまったくできない (音声が出力されない、 受信レベル表示は反応 している)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスマイクのプライベート通信を有効に設定していませんか？ ➡ プライベート通信機能を使用する場合は、本機とワイヤレスマイクに同一のキーコードを設定してください。 	<p>46および ワイヤレスマイク の取扱説明書</p>
<p>時々受信できなくなる、 またはノイズが発生する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機でキーコードスケルチを有効に設定していませんか？ ➡ キーコードスケルチ機能を使用する場合は、本機とワイヤレスマイクに同一のキーコードを設定してください。 	<p>46~47および ワイヤレスマイク の取扱説明書</p>
<p>混信する (時々、「NO DATA」 表示になる、受信できな くなる、音が出なくなる、 音が途切れる、ノイズが 発生する)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 近くにノイズ源となる機器がありませんか？ ➡ ワイヤレス機器および同軸ケーブルから遠ざけてください。 	<p>—</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスマイクの送信周波数が重複していませんか？ ➡ ワイヤレスマイクはすべて異なる周波数（チャンネル）に設定してください。 	<p>周波数表および ワイヤレスマイク の取扱説明書</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数のグループを同時に使用していませんか？ (隣接周波数でのマイク使用など) ➡ 同時に使用するワイヤレスマイクのグループは、1つにしてください。 	<p>39・43および 周波数表</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数のワイヤレスマイクを近づけて使用していませんか？ ➡ 距離を離してご使用ください。 	<p>8</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスマイクをアンテナに近づけて使用していませんか？ ➡ 距離を離してご使用ください。 	<p>—</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナアッテネーターの設定は、適切に調整されていますか？ ➡ 設定を調整してください。 	<p>44</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスマイクの送信出力レベルが「20 mW」になっていませんか？ ➡ 「2 mW」 または 「10 mW」 へ切り替えてください。 	<p>ワイヤレスマイク の取扱説明書</p>

故障かな!?

症 状

原 因 ・ 対 策

参 照 ペ ー ジ

混信する
(時々、「NO DATA」
表示になる、受信できな
くなる、音が出なくなる、
音が途切れる、ノイズが
発生する)

- 近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。
- ➔ 別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。

39・43および
周波数表

- 近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。
- ➔ ワイヤレスマイクとアンテナの距離を短くしてご使用ください。

—

音が出ない
(AES/EBU OUT)

- AES/EBU出力設定を間違えていませんか？
- ➔ 使用するチャンネルの組み合わせに合わせて設定してください。

48

- 同期設定を間違えていませんか？
- ➔ 使用する同期方式に合わせて設定してください。

49

- 同期終端設定を間違えていませんか？
- ➔ 本機がAES/EBU接続の最終機器になる場合は、終端設定を「ON」に設定してください。また、複数の機器が接続されている場合、途中の機器で終端設定が行われていないか確認してください。

49

音切れする

- ワイヤレスマイクの送信出力設定が「2 mW」になっていませんか？
- ➔ ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナの距離が離れている場合は、「10 mW」、「20 mW」に切り替えてください。

ワイヤレスマイク
の取扱説明書

本機の液晶表示に、
下記のエラーメッセージ
が表示される
「PLL* LOCK ERROR」
「DEVICE INIT
ERROR」
「FPGA COMM
ERROR」
「EEPROM ERROR」

- 本機内部でエラーが発生しています。エラーメッセージ表示中は、本機の操作ができません。
- ➔ 本機の電源を、再度入れ直してください。それでも直らない場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。

—

本機の液晶表示に、下記
のワーニングメッセージ
が表示される
「WORD SYNC OUT
OF RANGE」

- 同期はずれを検出しています。ワーニングメッセージは、運用モードのときだけ表示されます。(表示中でも本機の操作はできます)
- ➔ 接続先の機器との接続を確認し、再度電源を入れなおしてください。それでも直らない場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

—

仕様

●高周波部

受信周波数	1240.150~1251.825 MHz、1253.175~1259.850 MHzの指定する2波（設定にて切替え）
受信回路方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信方式	スペースダイバシティ方式
復調方式	遅延検波

●アンテナ

アンテナ端子	BNC (50 Ω) ×2
形式	1/4λホイップアンテナ
指向性	無指向性（水平面）

●オーディオ部

伝送遅延	約1.1 msec（帯域幅288 kHz時） 約2.9 msec（帯域幅192 kHz時） （ワイヤレスマイクのマイク入力から受信機のアナログ出力までの時間）
音声出力端子	XLR-3-32相当×2（1：GND、2：HOT、3：COLD）
周波数特性	20 Hz~22 kHz（帯域幅192 kHz/288 kHz）
ダイナミックレンジ	Typ.100 dB（A-weighted）
サンプリング周波数	48 kHz
量子化ビット数	24 bit
アナログ出力	基準：-56 dBu
デジタルオーディオ出力端子	RJ-45
デジタル出力	基準：-36 dBFS AES/EBU（AES3準拠110 Ω）
同期信号入力	WORD信号：48 kHz TTLまたは、1 Vp-p
ヘッドホン出力端子	φ3.5ステレオホンジャック
ヘッドホン出力	-18 dBV（VR最大、8 Ω負荷時）

●電源

電池	単3形アルカリ乾電池 LR6(XJ) 1.5 V × 4本 単3形ニッケル水素充電電池 BK-3MCC 1.2 V × 4本
電池寿命	約4時間（25℃、単3形アルカリ乾電池 LR6(XJ) 1.5 V × 4本） 約6時間（25℃、単3形ニッケル水素電池 BK-3MCC 1.2 V × 4本） [デジタル出力（AES/EBU）=OFF、LCDバックライト=消灯]
外部電源	DC+12 V（+11 V~+18 V）（DCジャック：φ2.1 センターマイナス）
使用温度範囲	0℃~+40℃
寸法	幅140 mm × 高さ106 mm × 奥行き39 mm（アンテナ含まず）
質量	約670 g（アンテナ・電池含む）
仕上げ	インディゴブラック色塗装

お買い上げ時の設定

本機の工場出荷時設定は、以下のとおりです。

メモリー番号のグレー部は該当がないこと、「←」は本機の状態と同じ値を表します。

	本機の状態		メモリー番号1		メモリー番号2		メモリー番号3	
	チューナー-1	チューナー-2	チューナー-1	チューナー-2	チューナー-1	チューナー-2	チューナー-1	チューナー-2
バンド	WIDE	WIDE	←	←	←	←	←	←
周波数	1240.150 MHz	1240.650 MHz	←	←	←	←	←	←
グループ	01	01	←	←	←	←	←	←
チャンネル	01	02	←	←	←	←	←	←
チャンネル呼称	L006	L026	←	←	←	←	←	←
キーコードスケルチ	OFF	OFF	←	←	←	←	←	←
キーコード	00000000	00000000	←	←	←	←	←	←
アンテナアッテネーター	OFF		←		←		←	
電池タイプ	ALKALINE		←		←		←	
間欠受信モード	OFF		←		←		←	
AES/EBU出力 ON/OFF	OFF		←		←		←	
AES/EBU出力	1→TU1/2→TU2		←		←		←	
AES/EBUクロック 同期	OFF		←		←		←	
AES/EBUクロック 同期終端	OFF		←		←		←	
無操作タイムアウト時間	12 秒		←		←		←	
メモリー名	MEMORY-1		←		MEMORY-2		MEMORY-3	
内部電池使用時間	00 : 00							
外部電源使用時間	00 : 00							
クイック設定割当1	設定なし							
クイック設定割当2	設定なし							
クイック設定割当3	設定なし							
クイック設定割当4	設定なし							
クイック設定割当5	設定なし							
クイック設定割当6	設定なし							

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(64~66ページ)でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- 製品名 ポータブル受信機

- 品番 WX-DR130

- 故障の状況 できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 7年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

その他

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■ その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒812-8531 福岡市博多区美野島四丁目1番62号